

JUMP COMICS

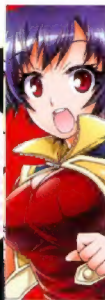


ボックス



めだか

めだかボックス 19



原作 西尾維新  
漫画 暁月あきら

19  
「ようこそ  
不知火の里へ」

原作

西尾維新

漫画

暁月あきら



9784088705019



1929979004002

ISBN978-4-08-870501-9

C9979 ¥400E

定価 本体400円＋税



ジャンプ・コミックス

雑誌 47443-01

**め** だかに父親殺しの疑念を抱く鶴喰鴎が、生徒会長  
の座を退いた彼女と接触。めだかの口から、鶴喰の  
父親の死が、彼女の婚約者たちが争う醜悪なる宴に関わ  
っていることが明かされ!?!「漆黒の花嫁衣装」編、開宴!!

MEDAKA-BOX

集英社



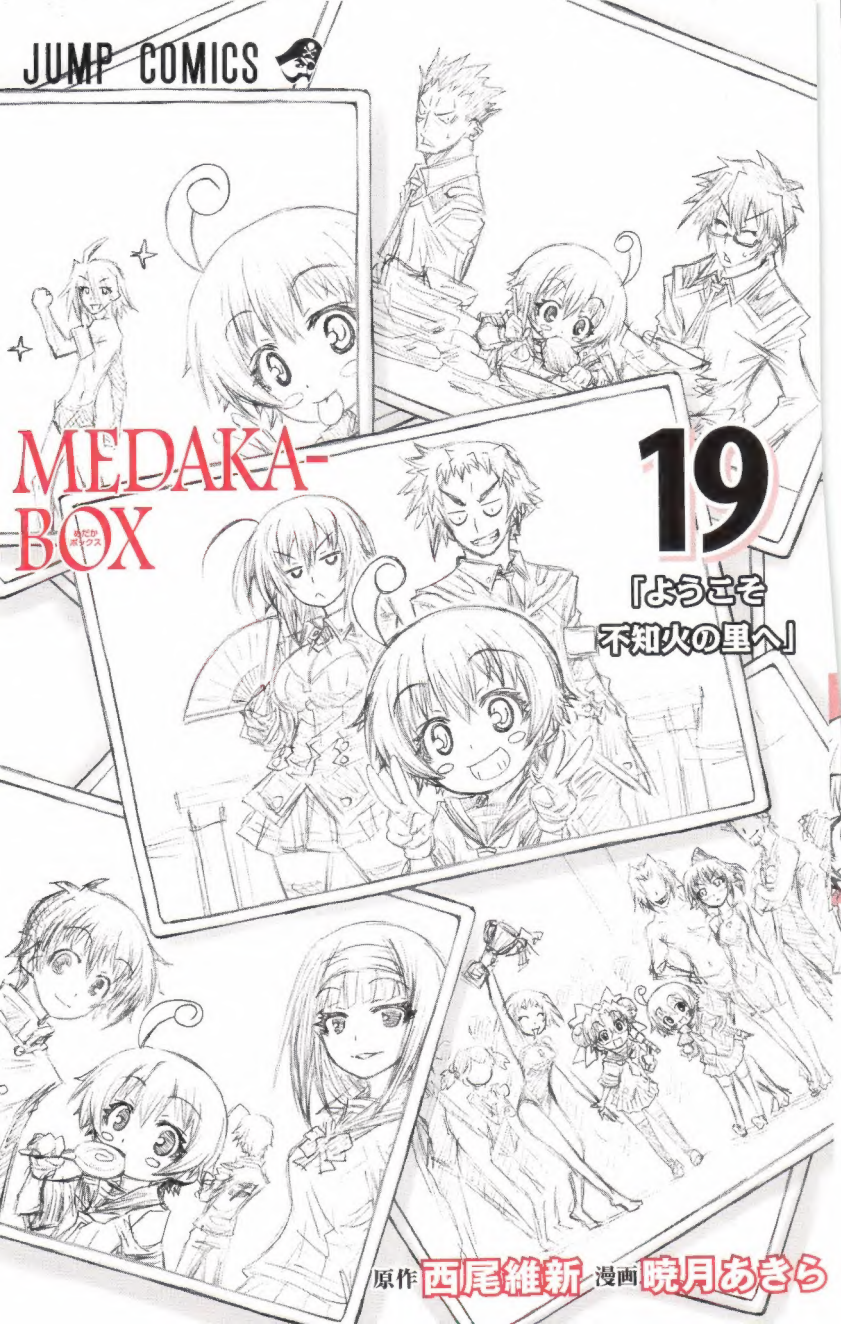


# MEDAKA-BOX

高田紗  
ボクズ

# 19

「ようこそ  
不知火の里へ」



JUMP COMICS



ボックス

めだか



19

「ようこそ  
不知火の里へ」

原作

西尾維新

漫画

暁月あきら

# CHARACTERS & STORY

キャラクターストーリー



黒神めだか



生徒会長  
人吉善吉



書記  
鮎川理



副会長  
名瀬天歌



会計  
江迎怒江



庶務  
虎居 碎

箱庭学園  
第百代  
生徒会執行部



あしむ  
安心院なじみ



しらぬいばんてん  
不知火半纏



つる はみ がもめ  
鶴喰 鴉



く しま かわ みさき  
球磨川禊



しらぬいばんてん  
不知火半袖



# STORY



生徒会長の座を退いた黒神めたかはある日、めたかの正式な婚約者となる権利をかけて、七つの分家が争う「漆黒宴」が行われるという知らせを受ける。自由を手にとめたかには、出場を決意。優勝を目指し、残る六つの分家と戦うべく鶴喰家代表として参戦する。オールジョーカーズや新生徒会メンバーを巻き込んだ戦いは遂に佳境へ。決勝戦「消失しりとり」が行われるが、めたかには心理戦によって婚約者たちを圧倒し、優勝を決める。晴れて自由の身となっためたかと一行は、箱庭学園での日々に戻るが…!?

# MEDAKA

## CONTENTS

# 19

第159箱	「不知火半袖って」	7
第160箱	「ようこそ不知火の里へ」	27
第161箱	「俺達を守っているのは」	49
第162箱	「箱庭学園のすべてが」	69
第163箱	「新しい」	89
第164箱	「世界を滅ぼすために生まれてきた」	109
第165箱	「十三組の十三人」	129
第166箱	「今日中に叩き潰す」	153
第167箱	「絶対に教えない」	173



# BOX

悪名高き漆黒雲は  
黒神めだかの機體で  
霧を閉じた

はこ  
だい  
第159箱

しらぬいはんそで  
「不知火半袖って」

これによつて  
めだかちゃん  
は購れて自由の身  
になったのだつた

そしてまた  
悔運の「いつも通り」が  
始まる――

「いやいや  
いつも通りじゃ  
ないだろう  
人言くん

きみはあろうことか  
黒神さんにプロポーズ  
したんだよ？

だったらこうして  
学園に帰ってきたところで  
以前と同じ関係とは  
もう言えないよ

あーいや  
そうなんですけど  
宗像先輩

けどそのあと  
俺が死んだり入院したりで  
ちゃんと話せてないん  
ですよー

それはよくないな  
……そんなんじや  
なんとなく

告白自体が  
あやふやになつて  
しまいかねないよ

おつと噂をすれば  
黒神さんだ  
丁度いい

その辺きつちり  
話しておいたほうが  
いいんじゃないかい？

ははっ！  
そうですわ

おーい！  
めだかちゃん！



.....  
きやす はな  
気安く話しかけないで  
いた  
頂けますか  
ひとよし  
人吉くん

あと  
きよう  
今日からは

わたし はんけい いま い ない  
私の半径10m以内に  
ちかよ  
近寄らないで  
ください。



.....あー

そりや  
あれだな

こくはく しまた  
告白の仕方が  
まずかったんだな

けっこん  
「結婚  
してくれ」  
って奴

ほら  
めだかちゃんって  
感性古風なところ  
あるじゃん



だから婚前の交際は  
ご法度とか  
思ってたんだろ

つまり  
あのプロポーズを  
受けた時点で  
黒神めだかにとつて  
人吉善吉は  
手も繋いじや駄目  
口も利いちや駄目

顔も見たくない相手に  
なったんだらうな

素直に付き合つて  
くれただけ言えは  
よかつたものを

善ちゃん  
雰囲気は吞まれて  
格好つけるから…

…本当  
怒るには  
厄介な相手だね  
黒神さんって

親しくなればなほほど  
距離が遠くなる感じは  
解消されたと  
思っただけだなあ…

いや今回は  
そういうのとは  
違うでしょう

いいんじゃないですか？  
ロマンチックで  
クラシックで

どうせ  
結婚するまでの  
我慢なんですから

…簡単に  
言ってくれるぜ  
虎居先輩

それに本当に  
そうかどうか  
まだわかんねーだろ

ひよつとしたら  
めだかちゃんは  
あのとき勢いで  
OKしちゃっただけで

今になって後悔して  
俺を避けてるだけ  
かもー

…その心配は  
ないと思いますぞ  
人吉殿

自分先ほど  
廊下ですれ違ひ  
しましたが

黒神殿は  
えらくご機嫌で

はしゃいで  
おられた  
ようなので――



あはははは  
ははははは！



ふー  
いい汗かいた！

さすがに  
反則王とプリンスの  
師弟コンビを  
相手にしては

私も引き分けるのが  
やっとだったな！  
実に悔しい！

クククッ  
そいつはどーも

先壁の面子が  
潰されそうで  
こっちは嫌な汗  
かいたけどな

……人吉くんと  
結婚するん  
ですって？

俺としては  
複雑な気持ちも  
ありますけれど

まずはおめでとうと  
言わせてください  
めだかさん

はっはっは！  
ありがとう  
直貴！

私としては直吉と  
一切会えなくなるので  
忸怩たる思いだがな！

忸怩たる思いなのは  
絶対に人吉くんの  
ほうだろう……

まあ  
善吉が18になるまで  
二年の我慢だ

そうだな  
卒業と同時に  
結婚して

そのあとは精々  
いちやいちや  
するさ

しかし相変わらず  
早耳だな高貴  
私と善吉との婚約を  
誰から聞いた？

ああわかった  
不知火からでも  
聞いたのだろう？

ぽっ  
きん

え？  
すみません  
めだかさん

しらぬい  
不知火って  
誰ですか？

おいおい  
何をボケとんねん  
不知火ゆーたら  
あれやん

箱庭学園の  
理事長の名前やん

そうだ  
そうでしたね！

ああそれに確か  
半袖さんの苗字も  
不知火ですよ！

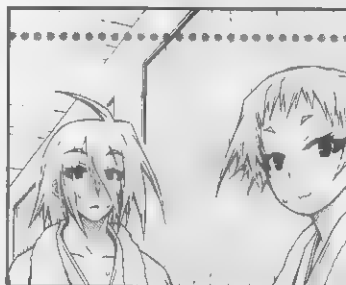
……おいおい  
冗談がきついぞ  
貴様達

しらぬいはんそで  
不知火半袖だよ  
不知火半袖

あいつのことを  
知らんはずが  
ないだろう！

しらぬい  
……不知火  
半袖って

誰？





不知火？

知らねーなあ

知らない…

よ？

知ってるよ

理事長の名前でしょ？

はあ？

誰？

半袖？

それ本当に  
人の名前か？

知らない？

不知火。

半袖さんのこと…

じゃ  
ないのよね？

生憎初めて  
聞く名だ

しかし  
そういえば黒神  
先ほど茶室で  
安心院さんを見  
つけたぞ

あー  
知ってる  
知ってる

誰とは  
言わないけど  
知ってる

奴に  
聞いてみれば  
どうだ？

もちろん  
知ってるぜ。

不知火  
はんそで  
半袖ちゃん！

僕もあの子には  
随分振り回された  
ものだよ

よかった！

さすがに  
そろそろ  
己が正気を  
疑い始めていたよ！

しかし一体  
どういうこと  
なのだ？

さながらかつての  
日之影先輩の  
ように

誰も  
不知火のことを  
憶えていない！

憶えていないの  
ではない

そう最初から  
知らなかったかの  
ごとく――

知らなかった

でも  
ないんだよ

めだかちゃん

「なかったこと」  
にされたんだ

不知火  
はんそで  
半袖が

はここにわかくせん  
箱庭学園に通った  
十一か月の思い出が。

なかったことって  
…え？

じゃあ  
それじゃあ…

え？

そう驚くなよ  
既にこれは  
きみが中学生の頃に  
一度体験している  
現象のはずだぜ？

僕という存在が  
あの夏休みに  
「封印」されて

「なかったこと」に  
なっただろう？

…じゃあ  
この現象は  
球磨川の仕業  
なのか！

「大嘘だ」で  
あいつが不知火の  
悪い出をなかったこと  
にしたのか……

どういうつもりだ  
あの男！  
なんの満腹で  
こんな真似をする！

ことと次第によつては  
殴つても理由を  
聞き出してやるぞ！！

はいじゃあ  
こちらが  
その

殴つても理由を  
聞き出された  
球磨川くんでーす

………  
！！

「……」  
「理由って  
言われたら」

「……」  
「理由って  
言われたら」

「……」  
「理由って  
言われたら」

「……」  
「理由って  
言われたら」

「……」  
「理由って  
言われたら」

「……」  
「理由って  
言われたら」

「……」  
「理由って  
言われたら」

「……」  
「理由って  
言われたら」

「……」  
「理由って  
言われたら」

「……」  
「理由って  
言われたら」

「……」  
「理由って  
言われたら」

「……」  
「理由って  
言われたら」

「……」  
「理由って  
言われたら」

「……」  
「理由って  
言われたら」

「……」  
「理由って  
言われたら」

「……」  
「理由って  
言われたら」



それに  
最近やつと

好きに  
なりかけてた!

いま  
今いなく  
なられたら

とにかく  
嫌だ!

「……」  
「さっさと  
消えて  
ただだよ」

「自分が学園学園に  
残した」  
「記録と記憶を  
消してくれたて」

「不知火ちゃん  
本人からね」

「立つ鷹  
跡を濁さず」

「だってさ」

「役割を終えて  
学園を去るに  
あたって」

「後腐れを残したく  
なかつたんだって」

学園を  
去る……?

わからん  
一体何を言いつて  
おるのだ?

いやそもそも  
役割を終えたと言うが  
あやつという役割とは  
なんなのだ?

……めだかちゃん

これは僕が以前から  
知っていたこと  
だけどね

不知火ちゃんは

黒神めだかの  
影武者  
だったんだよ

きみという化物の  
サポートが

箱庭学園における  
彼女の役割だった



「ただそこに

いるだけの愚平等」  
不知火半蔵から派生した  
黒神家を影から支える  
構うさの一族

影の黒神家とでも  
言うのかな

不知火一族っていうのは  
元々そういう一族だね



黒き夜に浮かぶ  
不知火は同時に  
ほつれを纏う  
白縫でもある

黒神

と

白縫

光あるところに  
必ず影が差すように

黒神の影には  
必ず不知火があった

例をあげれば  
こないだの六人の  
婚約者の影武者

彼らも元をたたせば  
出自は不知火なんだよ

箱庭学園理事長  
不知火椿くんだって  
そう

彼は黒神舵樹くんの  
代理で理事長を  
やっているようなものだ

もつとも彼の場合  
本人よりもずっと  
適性があったようだがね

不知火が  
私の影武者……？

にわかには  
信じられん

だって奴は  
私の活動に茶々を  
入れるだけで――

茶々とは酷いな  
めだかちゃん  
思いついてご寛  
彼女は明に暗に

時には敵に回り  
時には裏方に回り  
露骨にさりげなく

きみの学園生活を  
支えてくれていた  
だろう？

黒神めだかに  
足りないところを  
彼女は常に補ってくれて  
いたはずだぜ

めだかちゃんが  
不知火ちゃんを  
嫌いなのは  
ゆえに当然なんだ

だってあの子の  
することは  
きみができないこと  
ばかりなんだから

……しかし  
だとしたら  
尚更だろう

それが仕事なら  
尚更あいつが  
学園を去る理由が――

「あたしの仕事はこれでおしまい」  
「もうお嬢様には」

「あたしなんか  
いない☆」

「漆黒雲を終えての  
コメントだ」

「不知火ちゃん」  
「やり逃げたって  
願ってたよ」

!?

もちろん実際に  
任務の終了を決めたのは  
黒神家総帥である  
黒神舵樹くんだがね

この間、不知火理事長と  
話し合って  
そう決めたそうだ

舵樹くんがきみという  
本人の同意を得ずに  
影武者をつけたのは  
めだかちゃん

フラスコ計画を断る  
箱庭学園に入学する  
きみに対する  
親心だったん  
だろうけどね

そのフラスコ計画も  
健全化されたし

なにより  
人の心を理解した  
めだかちゃんに

もう影武者は  
必要ないらしいぜ

…お父様が!

…でも  
そんな

私が人の心を  
理解したせいで



私<sup>わたし</sup>が好<sup>す</sup>きに  
なりかけたせいで

もう不知火<sup>しらぬい</sup>に  
会<sup>あ</sup>えないなんて  
あんまりじゃないか…!!

やっと  
あいつと

友<sup>とも</sup>達<sup>たち</sup>になれると  
思<sup>おも</sup>ったのに…

……ところで  
球磨川<sup>くまがわ</sup>くん

僕<sup>ぼく</sup>の中で不知火<sup>しらぬい</sup>ちゃんが  
「なかったこと」に  
なっていないのは  
「東<sup>ひがし</sup>分<sup>ぶん</sup>の一<sup>いっ</sup>のスキルで  
防<sup>ぼう</sup>御<sup>ご</sup>したからだけだ

ゆだかちゃんの中の  
不知火<sup>しらぬい</sup>ちゃんはどうして  
「なかったこと」に  
なっていないんだい？

「あ  
それはまあ」

「ゆだかちゃん  
当事者<sup>当事者</sup>だからねえ」

「真<sup>ま</sup>黒<sup>くろ</sup>ちゃんが  
安心<sup>あんしん</sup>院<sup>いん</sup>さんを  
忘<sup>わす</sup>れていなかったのと  
同じだよ」

「逆<sup>さか</sup>に言<sup>い</sup>うと  
例<sup>れい</sup>外<sup>がわい</sup>はゆだかちゃん  
だけだ」

「箱庭<sup>はにわがえん</sup>学園<sup>がくえん</sup>に  
とってはもう」  
「不知火<sup>しらぬい</sup>半袖<sup>はんそく</sup>は  
最<sup>さい</sup>初<sup>しょ</sup>からいなかった  
生徒<sup>せいと</sup>だけだ」

…そんな！  
そんなの善吉<sup>ぜんきち</sup>に  
なんて言<sup>い</sup>えば  
いいんだ

私<sup>わたし</sup>は  
不知火<sup>しらぬい</sup>のことを知らない  
善吉<sup>ぜんきち</sup>の顔<sup>かお</sup>なんて  
見<sup>み</sup>たくない…

うーむ  
あと探<sup>さが</sup>してないのは  
ここくらいなんだが



不知火<sup>しらぬい</sup>の奴<sup>やつ</sup>  
一体どこに  
行<sup>い</sup>ったんだ…?





俺は臍を  
聞いてもらおうと  
不知火を探していた  
だけで

決してお前の  
10メートル以内に  
入ろうとしたんじや…



……  
めだかちゃん…?

あの

今度は  
どうしたの?

よかった

善吉

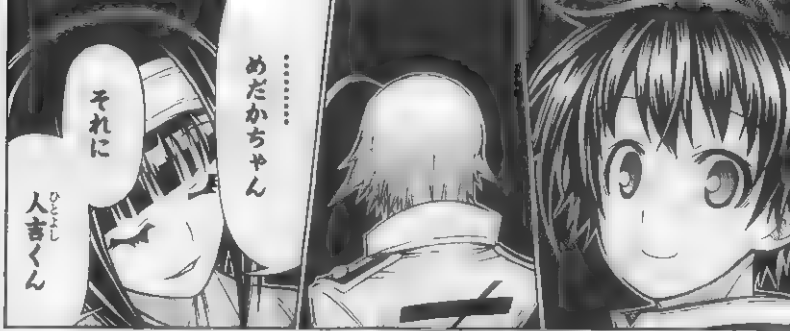
とても  
よかった



貴様の中に  
不知火がいて

本当に  
よかった…

めだかちゃん…



.....  
めだかちゃん

それに

ひろし  
人吉くん



え？

金いに行くつて  
.....

あん  
安心院  
さん？

なんなら  
きみ達も  
一緒にどうだい？

僕ぼくはこれから  
不知火ちゃんに  
会いに行くつもり  
なんだが

!?



言いつたろ？  
あの子にや  
借りてるまま  
なんだよ

その辺ちゃんと  
平等にしろとか  
ぬーとな

本当は一人で行く  
つもりだったけど  
なぜか不知火ちゃんを  
失うつていない

人吉くんに免じて  
連れていってあげても  
いいんだぜ

辛い行き先の  
アテはついてる

二人ともあの子にや  
お世話になったんだし

お別れの言葉でも  
かけてあげれば？



しらぬいしらずへん  
『不知火不知』編

久し振りだぜ  
懐かしいぜ  
この・・・



何の説明もなく  
話が進んでいく  
感覚！

第160箱

「ようこそ不知火の里へ」





めだか  
ボックス

「学園を去った  
不知火ちゃんに  
会いに行く」

「っていうのは  
いいけどさ  
安心院さん」

「二京分の一のスキルで  
びよーんとひとつとび  
瞬間移動とか  
できないものなの？」

「こんな山道を  
ちんたらジープで  
登らなくてもさー」

わははは  
球磨川くん  
きみはあれか

どこでもドアがあれば  
タケコプターはいらないって  
言っちゃうタイプか

旅つてのは  
道中を楽しむ  
ものだけ？

なんでもかんでも  
スキルを使えばいいって  
もんじやないのさ

…同行させて  
もらっている身だ  
貴様の縛りブレイに  
付き合うのは  
高かではないが

しかし安心院さん  
目的地——  
というか

できれば目的地は  
忘れて欲しく  
ないな

わかつてるさ  
僕は借りを  
返しに行く

そして  
めだかちゃん

きみは  
不知火ちゃんと  
友達になりに——



ど…どうした  
安心院さん？  
急に急ブレーキ  
なんかかけて…

急ではない  
急ブレーキが  
あるかよ

いやほら  
道に誰かが  
倒れててさ…

あ…  
残念

むくり

勝手にいただけ  
ませんでしたか

この清木信備  
梅恒の極みです  
黒神めだかさま

私のような  
早い影の  
低級シャドーは

高級車に乗る  
高級者に勝手にいただくのが  
何よりの幸せですのに

!?

貴様は  
漆黒堂のときの…

ふふふ 黒神さま  
そういえば 漆黒雲優勝  
おめでとうございました

てつきり 潜木のお嬢が  
優勝すると思っ  
いたのですけどねえ

影武者としては  
不甲斐ないばかりで  
実に快感ですよ

そうか  
潜木の影武者だった貴様も  
不知火家の人間  
なのだったな

だが  
こんなところに  
立ち込んだかって

否 寝はだかって  
何の用だ？

「つていうか  
驚きだよな」  
「安心院さんに  
こてんばんに  
されたきみが」

「こうもぬけぬけと  
再登場する  
なんてさ」

こてんばん？  
ふふふ  
そうですね

あのとき  
私が使ったのは  
「刀」でしたからねえ

ただ  
私の専門は  
実は

銃

でっつ…



いやはやすげーな  
きみには会ったひ  
圧倒されるよ

たった一京しかない  
スキルをまたもや  
百個も使わされたぜ

.....!!



スキルつてのは  
こいつの腕に  
使ったのさ

さあ球磨川くん  
こいつの傷を  
真してあげて?

首に刺さって  
道案内でも  
させようぜ

球磨川先輩の立ち位置が  
まさかの僧侶みたいにな...

「えー？」  
「男性の僧は  
真したくないん  
だけどー」

駄目だこの僧侶  
なんも悟ってねえ!!



...ふふふ  
お気遣いは  
結構

首に刺さる  
結構

言われなくても  
道案内はさせて  
いただきますよ

私はそのために  
任じられて

こゝで  
寝はだかつて  
いたのでから



ようこそ  
不<sup>しらぬ</sup>火<sup>い</sup>の里<sup>さと</sup>へ

ひとざと<sup>はな</sup>  
人里<sup>じんち</sup>離れた  
人知<sup>じんち</sup>を越<sup>こ</sup>えた

くろくろ  
黒神<sup>くろくろ</sup>の裏側<sup>うら</sup>の  
かげ<sup>かげ</sup>の里<sup>さと</sup>へ





いーんだよ  
あたしはこれまで  
「影武者」のつとめとして  
黒神めだかの代わりに  
食べてただけなんだから

お嬢様が  
ストイックな  
肉絶ちとかを  
やめた今

あたしが大食いする  
理由もまたないって  
ことさあ

…怪備から  
通信がありました

そのお嬢様と  
連れの者三人が

聖の入り口に  
来ているそうです

…そ

球磨川先輩の  
「大盛満ち」も  
案外当てに  
なんないな…

連れの者三人には  
どうせ人吉善吉も  
いるんだよね？

ほら漆黒宴のとき  
はるばる人質に  
とられに来たあいつ！

まあひと言  
言いたくなるのも  
わかるよね

あいつは自分が  
黒神めだかを  
支えていたつもり  
だっただろうに

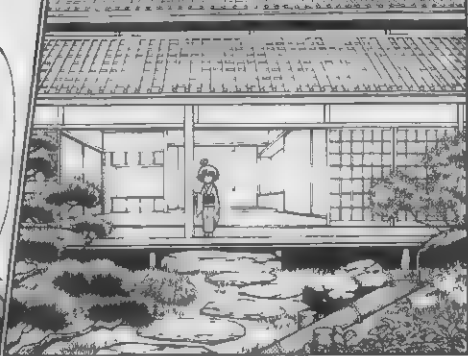
真にあのバケモン女を  
サポートしていたのは  
半端さまだっていうんだから  
いい面の皮だもん――





たいじん  
大任を終えて  
お疲れかい？

はんそで  
半袖



はて  
驚いたな

お前まだ  
引退して  
なかったんだ

す



おび  
帯…

ん  
うー



まったく  
休む暇も  
ないなあ

まお嬢様の影よりも  
大変な役つてのも  
ないだろうけどー

お館さま  
舵樹さまから？



ほら  
半袖

お館様から  
次の任務だ

「役払い」には  
次の役が一番だよ



……  
ほっ

ほおおう

これはまた  
演じがいの  
ある……



車で入れるのは  
ここまでです  
以降はご自分の足で  
歩いてください

はぐれたらまず  
合流できない  
樹海ですので

足を無いで  
——  
もとい手を無いで  
歩くことを  
おすすめします



……そう言えば  
貴様が影武者を務めた  
苗木もぐら

を始めとする  
私の元婚約者達は  
今どうしている？

元気で  
やっているのか？

ええまあ  
元気ですよ  
あの皆さんは

あなたに直接  
してやられた  
桃園さんは  
若干引き損っている  
ようですがね……

ならば奴に  
伝えておいてくれ  
——ただの遊びで  
よいのなら

私はいつでも  
リベンジを  
受けて立つとな

ふふふふ

確かに  
承りましたよ  
黒神さま

一個

聞きたいんだけど  
いいかな？

影武者やつてるときって  
あんたら  
どんな感じなんだ？

つまりその……  
影は影  
役は役として

自分っていうのは  
ちゃんとあるのか？

楽しかったり  
嫌しかったり

いや俺まだ  
展開に全然  
ついていけ  
ないんだけど

幸せだった  
りするものなのか？

……それを  
私に聞くのは  
無意味ですね

私は今ももぐら様の  
影武者ですので  
イエスとしか  
答えられません

既に「役」を終えられた  
半袖さまに直接会って  
聞くのがよろしいかと……

……

もつとも  
それはもちろん

会えたら  
の話ですが……



立て札？

みっつの証言の中にふたつの嘘がある。  
正しい道をひとつ選べ。

い「右の道が正しい」  
ろ「左の道が正しい」  
は「い」は嘘をついていないが、  
「ろ」は嘘をついている」

別れ道……

この通りですよ  
扉の内部にお出に  
なりたければ

どうぞ  
正しき道を  
お選びください

立て札の指示に  
従ってーね

…おいおい  
ちよつと待てよ

なんで俺達（おれたち）がこんな  
クイズもどきに  
付き合わなきゃ  
なんねーんだ？

この扉の中にある謎がある。  
謎をひとつ解く。  
の道が美しい。  
の道が美しい。  
「い」は嘘をついているが、  
「ふ」は嘘をついている」

お嫌（いや）ならば  
結構（結構）——  
ここでお待ち  
ください

お引き止めは  
いたしませんので…

お帰りくださいって  
…あんた

運案内して  
くれるんじや  
なかったのかよ！

いえそれは  
誤解（誤解）です

不肖（ふしょう）この私が  
任（まか）せられているのは  
帰（かえ）り道の案内内  
ですから☆

…いいよ  
付き合おう

間違（まちが）った道が  
どこに通（と）じて  
いるのかは…

まあ聞（き）かない方が  
よさそうだな

「随（ずい）分（ぶん）ものわかりが  
よくなったね  
めだかちゃん」

「あんなに」  
「実（じつ）験（けん）されるのは  
嫌（きら）いだった癖（くせ）に」



「でもきみが  
そんなにものわかりが  
よくなったからこそ」

「不知火ちゃん  
姿を消したんだってこと  
わかってる？」

「きみの成長が  
不知火ちゃんを  
箱庭学園から  
追い出したんだって」

.....

「なーんてね  
冗談冗談！」  
「だけど実際  
会ってどうする  
つもりなの？」

「あの子はもう  
箱庭学園には  
帰って来れない  
だぜ！」

「なにせ僕が  
彼女の学園生活を」

「なかったことに  
しちゃったんだから！」

「どういうつもりで  
僕を連れてきたのか  
知らないけど」  
「大層好き」で  
なかったことに  
したのは」

「施術者の僕でさえ  
もう二度と元には  
戻せないんだ」  
「会ったところで」

「正直意味があるとは  
思えないぜ」

正直

ね

なあ  
球磨川

.....

貴様 最近はすっかり  
そんな風に悪ぶって  
憎まれ口を叩く程度だけど

私に勝つ気とか  
もうなくなったのか？

私はいまや  
生徒会長じゃ  
ないし

貴様も最早  
副会長では  
ないが

私の露骨をかく気は  
なくなったのか？

誤解するなよ  
それなら  
それでいいんだ  
私も唯かに貴ほど  
強いたがる奴じゃ  
なくなったしな

だから貴様が  
私に勝つことを  
さっぱり諦めて  
日々を満喫していると  
いうのなら  
それでいい

勝たなくても  
幸せな人生も  
あるだろうからな



勝<sup>か</sup>つぞ。

めだかちゃん

僕は卒業する

までに

きみに勝<sup>か</sup>つ

さみの雨傘<sup>かたが</sup>きが  
何<sup>なん</sup>かなんて  
関係<sup>かんけい</sup>ない

僕は生徒会<sup>せいぐかい</sup>長<sup>なが</sup>に  
勝<sup>か</sup>ちたいんじや  
ない

さみに  
勝<sup>か</sup>ちたいんだ

そうか

だったら一切<sup>いっさい</sup>  
問題<sup>もんだい</sup>はない  
要<sup>い</sup>知<sup>ち</sup>承<sup>じやう</sup>知<sup>ち</sup>だ

不知火<sup>しらぬい</sup>を  
学園<sup>がくえん</sup>に連れ戻<sup>もど</sup>す  
算<sup>さん</sup>はついた

さ！ 行くぞ  
この道<sup>みち</sup>だ！

ちよつ…  
めだかちゃん？  
何<sup>なん</sup>言<sup>い</sup>ってんだ  
お前<sup>おまえ</sup>？

ていうか  
クイズも  
解<sup>と</sup>いてやったの？

ミタフな女性ですね  
あのかたは

潜木のお嬢が  
優勝できない  
わけですよ

あははは  
フォローする  
わけじゃないけど  
あの子は

その漆黒雲を通じて  
更にタフになったんだ  
だからあれは  
そのお嬢のお陰でもあるのさ

ですか  
だけど別問題だと  
思いますけれどねえ

学園に連れ戻す  
方法があるのと

半袖さまが戻りたいと  
思うかどうかは…

ところで半袖  
客人四人は  
どうするの？

不知火の里に来るとなれば  
さすがに半袖さまは  
一緒ではないようだけど

黒神家の人間が  
いるとなれば  
無下にもできないよ

まもつとも…  
例の立て札で  
道に迷っているかも  
しれないけどね

「ここから先は  
隠つき村です」  
って挨拶みたいな  
もんでしょあれは

あんな  
立て札

お嬢様にとつちや  
案内板みたいな  
ものだよ

けどまあ  
どうせここまでは  
来れないでしょ

間違った道は  
言うまでもなく  
地獄行きだけど

正しい道には  
正しい道で

もんぱん

ドッペル

が  
いるんだから

なんだ  
こいつら……

●  
●  
●  
●  
●  
●  
●  
●  
●  
●

2

強いだけの奴と  
弱いだけの奴と  
長生きしてるだけの  
奴と

優……甘いだけの  
奴だ

そりや普通の門じや  
足止めは不可能  
だらうけど

ここは  
影武者の巢窟  
不知火の里だよ

里げんそのものが  
影えんみたいなの  
ものだ

足止めは  
他ならぬ

連中自身が  
してくれる。

めだかちゃんの  
幼馴染み！

私は  
黒神めだかだ

安心院さんと  
呼びなさい

「僕は  
悪くない」

しかし  
役が抜けてないに  
しても半袖さま  
怒り過ぎじゃあ？

？

そりゃ  
まあ……

人質に取られたのは  
半袖さまも  
同じだからね……





自分にそっくりな  
人間  
「ドッベルゲンガー」

第161箱

「俺達が守っているのは」

を見たら  
死ぬって  
言うよね  
あれって

正確には  
「死ぬ」じゃなくて  
「殺し合う」らしいよ

結句人は  
自分自身を  
誰よりも  
嫌っている

顔を合わせたら  
殺したくなるほど  
憎んでいるとか


まあそういう  
教訓を含んだ話  
なんだけだね？

だからみんな  
戦っちゃうのかなあ

「ドッベルゲンガーズ」  
と

…そうだね  
勝てっこ  
ないのね

いくら  
お嬢様でも



自分自身と  
戦うなんて  
ただか

海を漂う  
不知火を





カツノ  
畜生駄目だ  
母があかねえ

キリがねえよ  
こんな戦い

「そうだね  
実に厄介だ」

「何より  
厄介なのが」



「女性陣ふたりが  
かっつない強敵と  
戦える喜びに  
打ち震え」

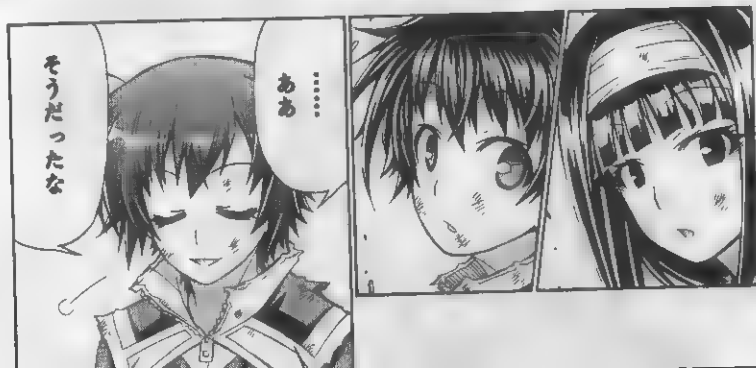
「バトルに  
はまっちゃってる感が  
厄介だよな」

「自分自身との戦いは  
己への絶望感から  
生じると言うけど」  
「あの二人の場合は  
渴望感なのかね」

「けど  
どうする  
善吉ちゃん？」

「このままじゃ  
ジリ貧は  
目に見えてるぜ」







わたし  
たち  
私達  
は  
い  
つ  
も  
互  
い  
違  
い  
に

つよ  
強  
か  
つ  
た  
り  
よわ  
弱  
か  
つ  
た  
り



プラスだったり  
マイナスだったり

勝<sup>か</sup>ったり  
負<sup>ま</sup>けたりの  
繰<sup>く</sup>り返<sup>かえ</sup>しだ！

[illegible]





…あの立て札を論理パズルとして考えたなら「い」と「は」が嘘をついていて左の道が答となるが

しかしよく読めば立て札は「ふつつの狂言のすに

ふたつの嘘がある」としか書いてない

狂言の中には「嘘」という文字が確かにふたつある

ならば問題文はその事実を述べているに過ぎず

嘘

つまり右の道が正解となる

お見事

さすが黒神家の次期当主

半袖が影武者を務めた女だけのことはある！

第一関門と第二関門はクリアだ

じゃあ第三関門に挑戦してもらおうか

次のゲームは鬼さっこだ

俺が十秒数える間に精一杯逃げな

その後更に十秒生きてられたら合格だ

きゅっ…

!?

4!

う…

はちっ…

鬼ごっこ  
の必勝法は  
鬼退治

というのが  
私の答だが

これが正解で  
いいのかな?

お見事 みごと

正解だよ せいかい

鬼が相手だろうと  
逃げなきゃいけない  
理由はないよね

ついてきな

とりあえず  
里の中には  
入れてやるよ

!?

不知火の里に  
邸外者が入るのは  
何年振りかな

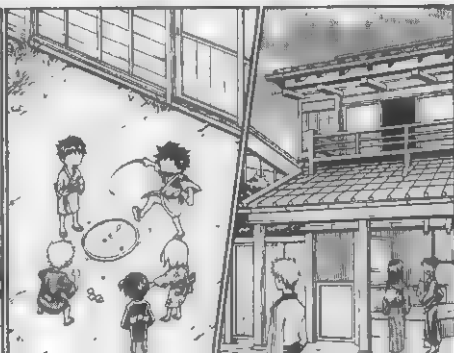
黒神家の人間でさえ  
ここには近寄ら  
ないからね

まあ折角なんだし  
ゆっくり見学して  
いってよ

って言うか！  
まあなんだな

見学してと  
言われても

入ってみれば  
思ったよりも  
普通の里だな



あはは普通の里か——  
そう言ってもらえると  
嬉しいよ

俺達の偽装が  
成功していると  
いうことだからね

とりもなおさず  
俺達は使命を  
まっとうできていると  
いうことだ

……  
使命をまっとう？

ああ  
そうだよ

不知火の里の  
果たすべき  
使命だ

なんだったら帰るときに  
あの別れ道で  
真ん中の道に  
寄っていつてこらんよ

きみ達なら  
きつと知ることが  
できると思うな

不知火の里が  
何を守って  
いるのかを

何を守って  
いるのか……って  
黒神家じゃあ  
ないのかい？

きみ達はずっと  
黒神家の影を  
務めてきたん  
だから

違うよ

俺達が  
守っているのは  
世界だ。

.....?

ふうん……

いま更言うまでもなく  
悪平等 安心院なじみは  
全知全能で

ここで帯が  
ほのめかした事実を  
その気になれば  
知ることでもできた

ただし彼女は  
それをしない。  
絶対にしない。

探偵小説を読むときに  
途中を飛ばして  
いきなり解決編のページを  
開くことは誰にでも  
できるだろう

だけどそんな行為に及ぶ  
人間は少なくとも  
誠実な読者ではあるまい

たとえるなら  
それと同じこと

強大な力を  
持つが故に

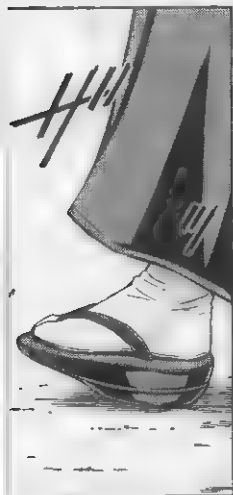
安心院なじみは  
「扉」に対して  
限りなくフェアだった

そしてその  
誠実さこそが  
この不知火の里に  
おいては致命的だった

安心院なじみは  
今回に限っては  
アンフェアでも  
よかった

そうこの里が  
もうひとりの  
悪平等

不知火半纏を  
原点とする場所だと  
意識するくらいには



到着

ここが里の中央  
不知火屋敷

それでは  
ラストゲームだ

これから出題する  
クイズが解けたら  
半袖に会わせてあげるよ  
お嬢様

出題者は  
他でもない  
半袖本人だ

これが解けない  
ようだったら  
お土産でも買って  
帰ってよね

…心得た

だが私からも  
ひとつ  
言っておく

これが本当に  
ラストゲームだ

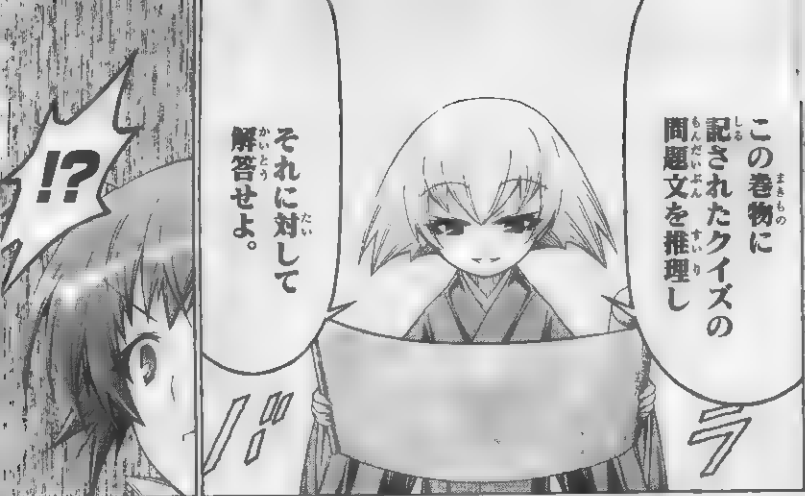
もしもこれ以上  
時間稼ぎに  
精を出すよう  
であれば

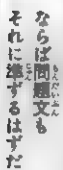
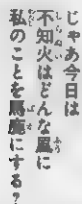
そのときは  
力ずくで  
通させてもらうぞ

お見通しかよ  
半端ないなあ…

おっけ！…

じゃあ  
もんだーい







もんだいぶん  
問題文は  
「お嬢様<sup>お嬢様</sup>に会ったときの  
あたしの第一声<sup>だいいし</sup>は？」

かいとう  
解答は  
「帰れ！」だ

と。  
私が推理<sup>たいてい</sup>すること  
を  
不知火<sup>しらぬ</sup>は推理<sup>たいてい</sup>  
するだろう

漆黒<sup>しつくろ</sup>を<sup>か</sup>終えて  
心理戦<sup>しんりせん</sup>に通じたつもり  
になつて私<sup>わたし</sup>を

あいつはそんな風<sup>ふう</sup>に  
嘲笑<sup>わら</sup>いたい  
に  
決ま<sup>き</sup>つて  
いる

もんだいぶん  
問題文は  
白紙<sup>はくし</sup>！

それ<sup>それ</sup>に<sup>たい</sup>対する  
私の<sup>わたし</sup>回答<sup>かいとう</sup>は

『ふざけるな！』  
だ！





くのいち  
版。



やあ

えーっと……  
どこのどちら様  
でしたっけ？

ひょっとして  
これただの  
勘ですけど

前会ったこと  
なかったです？

箱庭学園  
第162箱

「箱庭学園のすべてが」

待って待って  
言わないで  
自分で思い出す  
から

えーっと  
えーっと

ああまさか  
前の戦場の  
かたかな？

じゃあ確か  
球磨川先輩と  
安心院さんと

そうそう  
黒神めだかと  
人吉善吉だ！

ごめんね  
あたしって

どーでもいい奴の  
ことはすぐ  
忘れちゃうんだ☆

…どうやら  
心配はいらない  
みたいですね  
蒂さま

当然だ  
くだらん情に  
流されるような  
半袖かよ

半袖こそは  
不知火の里の  
体現者

さて皆さんには  
お引き取り願おうか

怪儒予定通り  
廻り道を  
案内して—

ピンポーン！  
そうだ私が  
黒神めだかだ！

思い出してくれて  
ありがとう！

感謝の気持ちで  
胸がおっぱいだ！

め…  
めだかちゃん…

が

お下劣ギャグを！

さあ！  
思い出してもらった  
ところで不知火！  
旧文を温めよう  
久闊を叙そう！

ところで  
この屋敷は客人に  
茶も出さんのか？



.....  
本当に変わったね  
お嬢様

昔ならここで  
ものわりよく  
帰ってくれたのにさ

ま  
だからこそ  
あたしは

お役御免に  
なったわけだが...



半袖さま...

怪傷  
茶を出してやれ  
茶請けもな

そして  
その後のことは  
任せる

主!  
承りました  
...

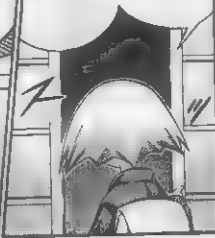
将さまは  
どちらに?

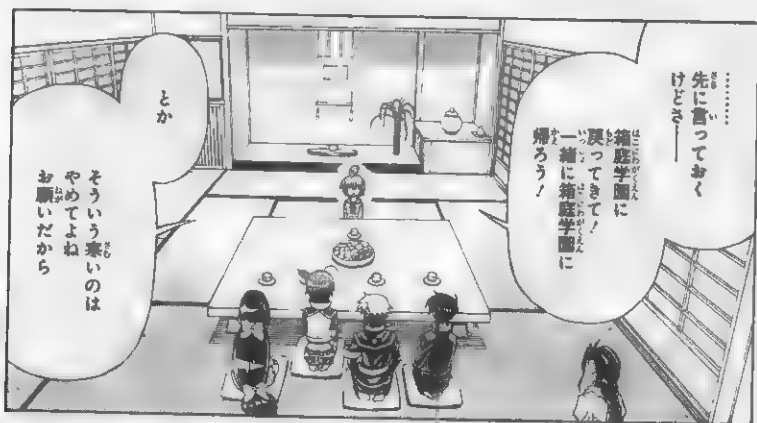
いいひこ  
言彦

なに  
取り越し苦労だとは  
思うが

用心深く  
念のためだ

に  
声をかけておく







仕事仕事って！  
全部仕事だったって  
いうのかよ！

不知火！

生徒会の執行を  
裏から支えて  
くれたことも！

マイナス十三組との  
戦いで暗に味方して  
くれたことも！

年末の選挙で  
影ながら俺を応援して  
くれたことも！

漆黒家で  
めだかちゃんの後ろを  
守ってくれたことも！

仕事仕事って！  
全部仕事だったって  
いうんだよ

人吉

生徒会の執行を  
裏から支えて  
あげたことも

マイナス十三組との  
戦いで暗に味方  
してあげたことも

年末の選挙で  
影ながらお前の  
応援をしてあげた  
ことも

漆黒家で  
お嬢様の後ろを  
守ってあげたことも

すええええええんぶ  
仕事さあ！  
言われたことを真々と  
こなしていただけ！

………  
がっかりだぜ

不知火  
お前はもつと

自由な奴だと  
思ってた

自由？  
それはあたしから  
もつとも嫌な言葉だ

もつとも

もつとも  
面倒な言葉でも  
あるけどお

まあでも人吉  
お前には感謝  
してるんだよ

これでも感謝  
してるんだ

お前のおかげで  
あたしの仕事は  
随分やりやす  
なっただから

俺のおかげ…  
?

どういうことだよ  
不知火

将を射んとすれば  
ます馬を射よつて  
奴だよ

箱庭学園に  
潜入したは  
いいものの

ガードが固くて  
お嬢様には  
なかなか近付  
けなかつたからねえ

だからあの日  
きつかけ作りの  
ためにあたしは

お前の足下に  
消しゴムを  
落としたんだ

おいおい！俺の前に  
消しゴムを落とすとは  
これは挑戦状と  
受け取っていいんだな！

カツ！俺が中学時代  
ケシオトを極めし男  
略して消し男と呼ばれて  
いたと知らんらしい

よし！受けて立つぜ  
だが明日まで待て  
マイ消しゴムを  
用意する！

俺は人吉善吉  
お前は誰だ！

……まあ  
リアクションは  
想定外だったけど

その後お前が  
あたしとお嬢様を  
驚いでくれたことで

あたしは  
自分の職分を  
まっとうできた

でもこれは何も  
特別なことじゃ  
ないよね

人吉お前は  
いつもそういう  
立場なんだから

鷹屋先輩や鍋島先輩が  
お前に声をかけたのは  
あくまでその後の黒神戦を  
見込んでのことだし

球磨川先輩がお前に  
突っかかっていたのは  
お嬢様のそばにいるお前が  
不愉快だったからさ

安心院さんがお前を  
自陣の駒に仕立てたのも  
それがお嬢様に対して  
有効な戦略だったからに  
過ぎない

結局お前は  
お嬢様への機嫌し役に  
過ぎないんだよ

だから  
傷つかないでね  
人吉くん

あたしがお前を  
友達ともなとも  
思っただけのことさ

………!!

てゆーか  
話が違うじゃん  
球磨川先輩

当事者のお嬢様と  
人外の安心院さんはともかく  
なんで人吉があたしのこと  
憶えてるんです？

「大嫌悪きつて  
そこまで劣化  
してるんですか？

「……」  
「理由  
聞きたい？」

いやいいですよ  
別に  
聞きたくもない

どうせ  
どうでもいいような  
理由なんでしょ

それより  
お願いが――

しらぬい  
不知火

私が問題に  
しているのは  
その点だ

どうして貴様は  
学園を去るに  
あたって

みなな記憶を  
消すようを  
真似をしたのだ？

別にそんなことを  
しなくても  
仕事が終わったのなら  
賭って姿を消せば  
いいだけの話だろう

なのに  
どうしてわざわざ  
ひと手間かけた？

退路を断ちた  
かったのか？

それとも今の話では  
私に記憶が残ることは  
わかっていただろうだし

こうして  
迷いかけてきて  
欲しかったのかな

どちらにしても  
不知火 貴様  
箱庭学園に  
未練たらたらじゃ  
ないか

：追いかけてくるって  
わかってたから  
退路を断ったんですよ

心理戦にちよこつと  
長けたくらいで  
人の気持ちをつかんだ  
気にならなくてくださいな

……それが  
貴様の本音なら  
引き下がろう

そのときは  
皆みたくに  
ものわかりよく

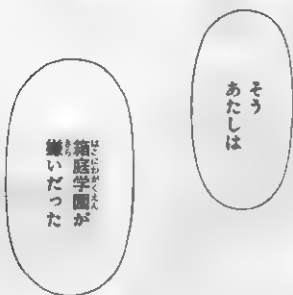
すぐに  
帰ってやるさ

だがもしも  
貴様の本音が  
違うところに  
あるのなら

私はそのために  
金力を尽くす

貴様が  
箱庭学園で  
作ったのは

そういう  
仲間だ。



箱庭学園が  
嫌だった

通学路を  
一歩一歩歩くとき  
全然うきうき  
しなかった

校門をくぐるとき  
始まる一日を思つて  
心躍つたりしなかった

クラスで遊ぶのに  
断つてもらえて  
全く嬉しくなかった

一瞬も二瞬もある  
生徒達に囲まれて  
楽しくなかつた

同じ日が  
一日もなくて  
ちつともどきどき  
しなかった

学食のご飯は  
食べ過ぎるくらい  
おいしくなかった

花畑みたいになった  
学園の風景に絶対  
飽きたりしなかった

二道も三道もいかない状況を  
打破する策を練ることに  
手こたえもやりがいもなかった

体育祭や文化祭で  
めいっばいはいしゃいで  
気が晴れなかった

みんなといると  
これが仕事だって  
うっかり忘れそうに  
ならなかった

あたにかい  
ぬくもりも

ハードルの  
ハードさも

みんな  
みんな

嫌いで  
嫌いで  
嫌いだっ

あたしは  
箱庭学園の  
すべてが

大嫌い  
だっただ!!



だから！  
だから球磨川先輩  
お願いです

私の記憶のほうを  
なかったことに  
してくださいよ

「劣化大嘘憑き」  
で！

それなら当事者とか  
関係ないでしょ？

私が  
箱庭学園を  
忘れたら

お嬢様も  
諦めがつくと  
思いますし！

「……時は机を並べて  
勉強した仲だ」  
「うんと言っただけだ」  
「うん、なんだけど」

「それは無理だね  
不知火ちゃん」

なんでですか？

手ブラジーンズに  
でもなれって  
言うんですか？

「今の僕の  
トレンドは  
全開パーカーだ」

「それはともかく  
不知火ちゃん」  
「確かに」

「今の「大嘘憑き」は  
本当に劣化  
しててね」

「名瀬さんに  
言わせれば」  
「強い気持ちがある  
こもったものは  
なかったことには  
できないそうだ」

「つまり  
善吉ちゃんが  
きみを憶えていると  
いうことは」

『きみの  
氣持ちが』

『箱庭学園に  
残ってるって  
証明だ』



『響吉ちゃんは今  
幽がりなりにも  
生徒会長だからね』  
『よくも悪くも  
箱庭学園の代表  
なんだろう』

『だからそこに氣持ちが  
残ってしまった』

『つまりきみからも  
箱庭学園を  
なかつたことには  
できない』  
『きみの氣持ちが  
強過ぎて』

『マイナスイ  
「過負荷の」』

『僕の手には  
負えないぜ』



：不知火  
お前が俺を  
なんと雇ってしよう  
なんと雇ってなからうと

学校より仕事  
が大事なら  
それでもいいんだ

かなり本気で  
泣きそうになったが  
それでもいいんだ

だけどこんな  
別れ方はねーだろ

心の準備つてもんが  
あるだろうが

せめて  
お別れ会くらい  
開かせろよ!!

俺はお前と  
もう一回でいいから  
できれば二回!

一緒にご飯が  
食べたいし  
くだらねーこと  
ダベってたいし!

消しゴム落としが  
してーんだよ!!

だからせめて  
三学期が終わるまで  
くらいは学園にいろよ!

みんなの記憶なら  
めだかちゃんが  
なんとかしてくれるから!

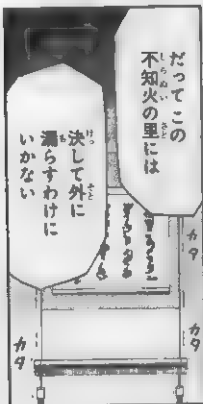
.....

駄目なんだよ  
人吉

あたしは  
仕事以外じゃ  
里の外には  
出られないんだ

だってこの  
不知火の里には

決して外に  
濡らすわけに  
いかない



闇<sup>やみ</sup>  
が







# 獅子目言彦



全開パーカー、て  
ーんなの。





……  
いいぞ

その調子で  
客人を  
もてなせ

獅子目彦  
しめいひこ

第163編 「新しい」

めだかちゃん

僕が十五秒だけ  
時間を練いで  
やるから  
逃げる。

げ げ

げ げ





五千年ぶり  
……?

安心院さん

貴様  
この男を  
知って――

待て  
善吉！



てめえ！  
不知火を……

俺の愛する親友を  
ぶつ飛ばしといて！

何大爆笑してんだ  
この野郎！



あたら  
新しい。

!?

蚊

がこいまで  
目を隠る進化を  
見せておるとは!

この「かゆみ」  
新しいぞ!  
聞いたまさか下界では  
同族にも

延髄直撃  
お母さん直伝の  
足技なんだぜ?

え...?  
ノーダメージ?  
嘘だろ!?

ぜんっ...

蚊は  
平手で!

だが! されど!  
如何に大きく  
育とうと!

ガードしろ  
善吉いい——っ!!

たつぷ  
叩き潰すものと  
相場が決まっております!

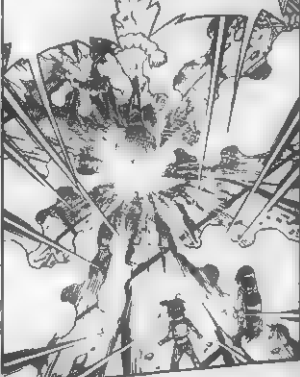


あつ！

あああああああ  
あああああつ！

善吉が！  
ぜんきちが！

木っ端微塵に  
こっぺみじん  
しょうめつ  
消滅っ…！



…いや

下だよ  
くだよ  
めだかちゃん





…か

かはっ

むう！五体が  
破裂しておらんとは  
どういふことだ！

はーん  
さてはこやつ  
人間だな？

蚊のフリをして  
僕を謀り  
手加減を誘うとは  
なんという策略家だ

新しい！  
この言彦  
恐れ入った！



「……………」

「くっ」

!?なんだ  
この手応えの  
なさは!?

一瞬空振り  
したかと  
不安になった!

空気抵抗よりも  
無抵抗とは  
この男  
新し過ぎる!

「……めた」  
「かちゃん」

「安心」

「院さんの言う通りだ」



「逃げ」

「ろ」



げっげっ…

その女はどうやら  
無闇に飛びかからん  
だけの知恵は  
あるようだな安心院

お前の  
お気に入りか？  
げっげっげ！



安心院さん…  
何者なのだ  
こいつは…

善吉と球磨川を  
歯牙にもかけん  
とは…

いいから早く  
逃げてよ  
めだかちゃん

仕方ねえこの隙  
傷ついた仲間を  
かき集めるくらい  
の時間も  
稼いでやるからさ



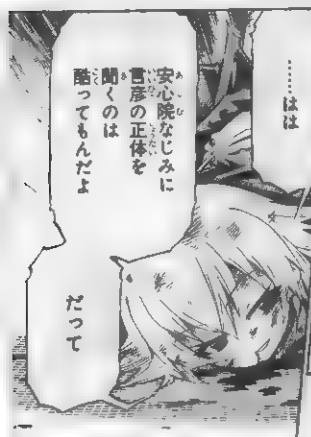
そうではない！  
あいつは何者なのだと  
聞いておるのだ！  
こんな時まで  
勿体つけるな！

知っているなら  
ちゃんと教えろ！！

……はは

安心院なじみに  
言葉の正体を  
聞くのは  
酷ってもんだよ

だって



言彦は  
五千年前

安心院  
なじみが

人外が初めて  
勝てなかった  
人間なんだから

僕は  
めだかちゃんには  
勝てないよ

千・年・に・一・人・く・ら・い  
い・る・ん・だ・ぜ

ああいう  
理屈じゃなく

勝者であることを  
決めつけられた  
人間が

ああそうさ

五千年前は  
「ある目的」を  
達成するため  
こいつと

言彦と  
対峙したんだ

戦ずかしながら  
当時の懐ときたら

この男  
獅子目彦彦に

少なくとも見積もつても  
一億回以上  
敗北した。

当時だって  
スキルは一軍を  
越えていたし  
端末も相当数  
いたのだから

そんなことは  
何の足しにも  
ならなかった

おん

最終的に僕は  
戦闘を避けることで  
「目的」を達成した

以来  
会ってない……  
つか

てつきり寿命で  
死んだと思ってたん  
だがな……

五千年前の人間が  
どうして  
生きているのか

どうして  
ここにいるのか  
謎めいているが  
あの子が

「守っているのは世界」  
と言った意味は  
わかったぜ

不知火の夏は  
この男を封印するために  
あつたんだ

不知火ちゃんか  
夏を出られない  
理由にも

きつとそれが  
関係している

わかったら  
逃げてくれ  
一生のお願いだ

鎌倉川くんはともかく  
人吉くんはまた死ぬぜ



あま  
甘える！



五つ子…!?

!?



十五秒で  
戻る!!

一生のお願いだ  
それまで

なんとか堪えろ  
安心院さん!!

……  
不知火ちゃんは  
当然としても

敵方である  
潜水怪魚や帯まで  
持っていくとは

そういうところは  
変わらないんだね

めだかちゃん

武器を奪われて  
しまったな

人間の無刀取りとは  
新しい

まあよい  
安心院なじみ  
五千年ぶりに

貴様と戦うにはどのみち  
専用の武器を用意  
せねばなるまいと  
思っておったのだ

準備完了

たまたま  
輪ゴムを持ってて  
よかった

貴様と戦うに  
相応しい武器だ  
げっげっげ

……お前も  
変わらないな  
そういうところ

大つつ  
嫌いだぜ

言葉

げげげ  
そういえば  
安心院

あれからお探しの  
「できない」は  
見つかったのか？

貴様の次の  
「できない」は  
自殺だ！

徹底的に  
邪魔してやるから  
覚悟しろ！

……

まあそんな  
目新しいことは  
どうでもいいがな

そうだ！それより  
新しいことを  
思いついたぞ

貴様などと  
五千年前に戦い始めて  
おるのだし！

安心院なじみ！  
貴様があいつらを  
追いかけてつかまえて  
縛りあげて  
檻に獻上しろ！

そうすれば  
貴様の命だけは  
助けてやるぞ！

貴様にしてみれば  
簡単なこと  
だろう？



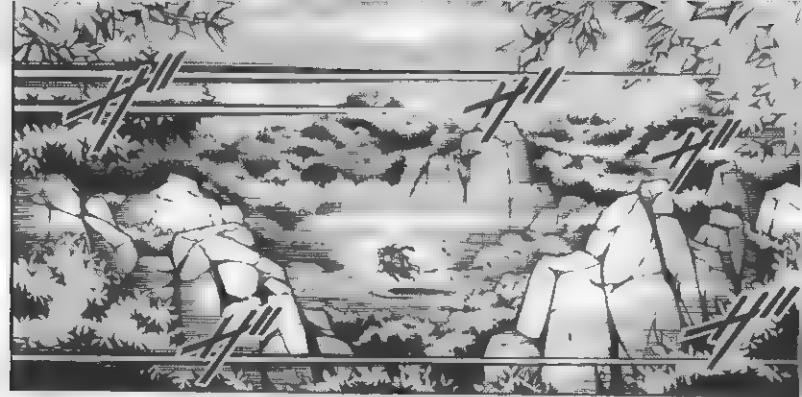
そいつはできない  
相談だな











.....  
お嬢様……

不知火！  
喋れるのか！

丁度よかった  
もうすぐ  
ジープがある！  
貴様なら運転  
できるよな

私は安心院さんの  
ところに戻らねば  
ならんから

皆と一緒に  
安全なところまで  
逃げてくれ！



駄目だ……お嬢様  
あたしが一緒だったら  
意味がないんだ

あたしが一緒に  
いる限り  
あいつは

貴方は  
どこまでも  
追ってくる……

!?  
よくわからんが……  
心配するな！  
大丈夫だ不知火！

安心院さんが  
時間を稼いで  
くれるから――



あたら  
新しい  
!!!

このジープは  
新車しんしやのようだな……



どの道

ジープのキーは

安心院さんが

持ってたんじゃないの

……………？

………  
貴様なら

キーがなくても

動かせるだろ



わし  
は、この自動車という  
発明品を見るたび  
微笑ましい  
気持ちになる

こうりせい  
合理性や  
機能だけを  
追求しない

にんげん  
人間の  
お茶目な側面を  
感じながらのう



だつて  
移動手段に  
乗り物を作らうて

げげげ！  
進む心に  
湧きすぎだろう！

かんが  
どう考えても  
走ったほうが  
速いの！

第164箱 「世界を滅ぼすために生まれてきた」

お嬢様……  
逃げてください  
あいつはマジで  
やばいんだ

お願い……  
逃げて……

……  
世にも珍しい  
貴様の願いだ

なんとしても  
きいてやりたい  
ところだが



ごめん  
無理！



!!

ぬうつ…？

あれが噂の  
改神モードか…

みたいですね  
…ということば  
出ますよ

名高き  
光速移動  
「黒神ファントム」ノ



# 黒神フ



まあ  
そう神がるな  
少女よ

調子には  
早急というの  
あるのだ

聞けば貴様は  
安心院のお気に入り  
だと言うし  
僕としても万全を  
期したい

武器を用意するから  
少し待て

貴様のその  
ゆっくり動く  
謎の技の正体は

あとで  
見抜いてやるから  
楽しみにしておれ!

えーっと  
どこだったかな

確か貴様と  
戦うのに相応しい  
武器が

その辺に  
あったと思っただが……

おお!  
あったあった  
そこだったか!

実は僕は初見から  
あれはいい武器に  
なりそうだと  
目をつけておったのだ

貴様/さては  
さっきのように  
甚古も武器に  
する気か!

そんなことは  
許さんぞ!





いや、<sup>わし</sup>が  
武器<sup>ぶき</sup>にするのは  
この眼鏡<sup>めがね</sup>だ

げっげっ  
げっげっ

これさえあれば  
<sup>ひゃくにんりき</sup>  
百人力<sup>ひゃくにんりき</sup>だわ



やれやれ  
……また

言<sup>い</sup>彦<sup>ひこ</sup>の遊び<sup>あそび</sup>が  
始<sup>はじ</sup>まりましたね

ういーん  
がしゅん

ういーん  
がしゅん

ういーん  
がしゅん



がしゅん!  
完成<sup>かんせい</sup>だ

名<sup>な</sup>付<sup>づ</sup>けて  
メカネ  
『眼鏡<sup>めがね</sup>ンサク』!

さあどこからでも  
かかってくるがよい!

貴<sup>き</sup>様<sup>さま</sup>  
ふざけ——

るなっ

.....!!



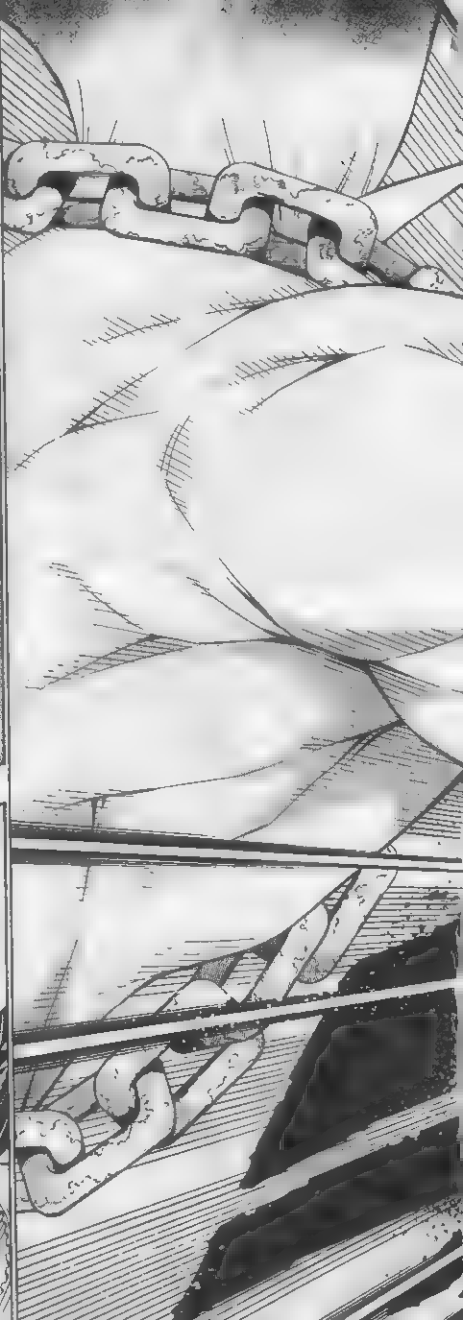
うむ  
この限り味  
新しいぞ

さすが鋼の  
眼鏡に達った  
眼鏡

そのレンズに  
一点の曇りも  
ないな！

ぐっ…  
うう…

が…ふっ



があっ!



飛びつき  
胸十字…!

柔道技!!

姉妹コンビとの  
柔道対決が  
こんな形で役に  
立つとはな

悪いが加減して  
やれそうにない

このまま  
貴様の肘関節を  
碎かせてもらうぞ!!



俺に関節技を  
使うとは  
新しいな

だができるかな?  
親切心から  
教えてやるが

先の一撃で  
貴様の肘関節こそ  
碎けておる  
はずだぞ?

ふんっ…  
小さな親切  
大きなお世話だ!

その程度の傷!  
私は三秒あれば  
回復す





あれ？



ん？  
どうした  
少女よ

口ではツンケン  
しながらも

やっぱり手加減  
してくれたのか？



それに僕が  
見たところ  
その肩は

まったく回復  
しておらん  
ようだがな？



るっ——  
!?



……  
駄目なんだよ  
お嬢様

言葉に  
聞かれたら

もう  
おしまいなんだ



……  
!?

言彦が  
世界に与えた  
ダメージは

その後  
決して回復  
しないんだ

お

ん



砕いたものは  
ずっと砕けたまま  
壊したものは  
ずっと壊れたまま

千切ったものは  
ずっと千切れたまま  
潰したものは  
ずっと潰れたまま

言彦の行為は  
自然でも  
超自然でも

治らないし  
治せないんだ

もちろん

殺された者は  
ずっと生き返らない

不死身の碌磨川先輩や  
根性の塊みたいな人々が  
いつまでもダメメージから  
回復してこないのが  
いい例でしょう？

お嬢様……  
残念ですけど

その肩は二度と  
あなたの頭より上には  
上がらないんだ

……………!!

不可逆の  
デストロイヤー  
獅子目言彦

まさしく

世界を滅ぼすために  
生まれてきた  
人間だ

……  
それがどうした

破壊を得意と  
する者なら

箱庭学園にも

一人おるっ…!!

おおっと!

ほほう  
そんな奴が  
おるのか

ならばいつか  
そやつと破壊の  
名をかけて

戦ってみたい  
ものだな。

!?

しかしあえて  
砕けた肩で  
俺を殴ろうとは  
意気軒昂な少女だ  
新しいぞ

一体どうやって  
腕を上げたのだ?

ああ  
わかったぞ

胴体を急激に  
回転させて  
遠心力で腕を  
振り回したのだな?



ここら辺の筋肉を  
使っ<sup>つか</sup>て!!



げっげっげ  
イ

めだか様<sup>めだかさま</sup>の  
戦士<sup>せんし</sup>生命<sup>せいめい</sup>も

さしもの化物<sup>ばくもの</sup>も  
体幹<sup>たいかん</sup>を壊<sup>こわ</sup>されては  
もう動<sup>うご</sup>けないでしょう

終<sup>は</sup>わりですわね…  
戦<sup>いくさ</sup>いも

お嬢<sup>じょう</sup>様…  
………





!?やめる言彦  
やり過ぎだ!

本家のお嬢様を  
殺す気か!?

無茶を言うなよ  
半袖

言彦が  
そんな理由で  
やめるわけが  
ないだろう

だからこそ  
不知火の里が  
あるんじゃないか

こんなことに  
なったのは  
お前のせいだよ  
半袖

お前が箱庭学園に  
しがらみを残して  
くるから

心残りを  
残してくるから  
こんなことにな  
ったんだ

わ…わかった!  
その通りだから  
言彦を止めて  
幕!

思い出  
なんか

思いなんか  
全部捨てるから!!

あたしは一生  
この里に  
いるから!

だからっ…  
だからっ…

お願いだから  
言彦を止めて…!!

なつ…  
言彦の

受け止めた…?

…その願いなら  
きいてやる

不知火

貴様はいつも  
そうやって

いつもいつも  
そうやって

自分の思いを  
殺して

自分を殺して  
私を支えていて  
くれたんだな

ありがとう

大好きだ

大好きだぞ  
不知火

ありがとう

大好きだ

大好きだぞ  
不知火

ありがとう

大好きだ

大好きだぞ  
不知火

げっけっけっけ…  
新しいな  
新し過ぎるな  
新し過ぎ過ぎるな

<sup>わし</sup>鎮を止めるだつて？  
<sup>どうや</sup>どうやって？  
<sup>どうや</sup>どうやってどうやって？  
<sup>やって</sup>やってやってやって？

やつてみる！  
<sup>わし</sup>鎮は自動車と  
<sup>ちが</sup>違つて

バッテリーがあがつたりは  
せんのだよー！！

ぎゅっぎゅっぎゅっ...  
 新しいな  
 新しい過ぎるな  
 新しい過ぎるな  
 鎮を止めるだつて？  
 どうやって？  
 どうやってどうやって？  
 やってやってやって？

やってあろ！  
 鎮は自動車と違つて  
 バッテリーがあがつたりは  
 せんのだぞー！！

げっげっげっ？  
 新しいな  
 新しいな  
 新しいな  
 新しいな  
 どうやって？  
 どうやってどうやって？  
 やってやってやって？

やってあろ！  
 僕は自動車と違つて

バッテリーがあがつたりはせんののだぞー！！

!?

ぬっ…

ぬうう  
うううっ!?

…まあ  
そう言わずに  
こまめに充電  
しておけよ

痺れるだらうっ

俺の放った  
電撃は

!?

誰だ!  
だれ

そこに居るのは  
何者だ!?

何者とな？  
なにもの

生憎今の俺は  
あいにくいまおれ  
何者でもない  
なにもの

問われて名乗るも  
と  
おこがましいよ  
なの

通りすがりの  
とお

普通の俺さ。  
ふつう  
おれ



なれけにお前  
一人だけ  
無傷だな

...

まあ  
スキル100個とか  
喰らえますけどね





ご覧の通り

通りすがりの  
普通の偏さ。

都城…

都城王土！

ぬっ…

ぬぬぬうっ…

もともと  
俺は普通でも

俺の仲間  
は普通ではないぞ

第165箱

「十三組の十三人」

紹介しよう  
普通なる俺の

第165箱  
「十三組の十三人」

サーティーン、パーティー  
十三組の十三人……

アブノーマル  
異常な  
なかま  
仲間だ。

フロントメンックス  
表の六人！

めだか  
ボックス

…どういふ一行だよ  
あの奇人変人軍団は？

さあ…  
漆黒軍では  
見なかった顔ですが…

黒神めだかの  
かつての  
敵だよ

箱庭学園の  
根幹である  
フラスコ計画

その栄えある  
モルモットの  
最終章…今でも

箱庭学園じゃ  
彼らと生徒会との  
バトルは断り難だ

ふうん…  
要するに

取るに足らない  
雑魚ってことか

あた  
新しい！

げ  
げげげ

しらぬい  
不知火の里に  
これほど大勢の  
お客様がいらつしやる  
とは実に空前だ！

げっげっげっ  
げっげっ  
げっげっ

げ  
!!?

誰<sup>だれ</sup>が笑<sup>わら</sup>つて  
いいつつたよ

お?

種<sup>たね</sup>も仕<sup>し</sup>舞<sup>ま</sup>けもない  
一<sup>いっ</sup>対<sup>たい</sup>一<sup>いつ</sup>の肉<sup>にく</sup>膚<sup>はだ</sup>戦<sup>いくさ</sup>で  
勝<sup>かち</sup>以上<sup>いじやう</sup>に

黒<sup>くろ</sup>神<sup>かみ</sup>めだかを  
追<sup>お</sup>い込<sup>こ</sup>んだ生<sup>せい</sup>徒<sup>と</sup>は  
学<sup>がく</sup>園<sup>えん</sup>にいない

人<sup>ひと</sup>呼<sup>よ</sup>んで  
棘<sup>はりばり</sup>毛<sup>け</sup>布<sup>ふ</sup>

オーストパイロフ  
反<sup>はん</sup>射<sup>しや</sup>神<sup>しん</sup>經<sup>けい</sup>  
高<sup>たか</sup>千<sup>ち</sup>穂<sup>ほ</sup>仕<sup>し</sup>種<sup>しゅ</sup>!!

ぬ

ぬぬぬ

ぬう!!?

お前を  
殺すのに

どうやら理由は  
いらないうた



だから  
殺す。



最大兵器にして  
最速機動という  
悍まじき  
全面兵器

調補なる  
投資術こそ  
喪失したけど

殺しの腕は  
未だに他の連隊を  
許さない



人呼んで  
枯れた樹海

殺さない殺人鬼  
宗像形!!



馬鹿な…  
なんだこいつら

どうして  
ただの高校生が  
ここまでの戦闘力を  
……!!

だから  
フラスコ計画の  
お陰なんだよ

ちつと言うなら  
彼女のお陰だ





すべての異常性を  
解体し解明した  
マッドサイエンティスト

博士にして  
名伯楽

箱庭学園の生徒は  
みんな彼女を  
魔王と呼んで  
尊敬している

人呼んで  
ブラックホワイต์  
黒い包帯

人体改造  
名瀬天歌!!

その通り名  
久し振りだなあ！



ぬっ…  
ぬぬうっ…

そして  
そんな魔王の  
重傷傑作こそが  
あの子

実際あの子は  
そのフィジカルに

黒神めだかさえ

ぐっ…  
ぐうっ…

ひとよ  
人呼んで  
ベス トベ イ  
骨折り指切り

かいぞうにんげん  
改造人間  
こか  
古賀いたみ!!

にやはは  
はは——♪

こが  
古賀ちゃん  
ふっかつ  
復活だよーんっ!!

さすがは俺の  
偉大なる仲間達

これは俺達も  
負けておれんな

ぞうだね王土  
えへへへ

ボク達のいいところ  
見せなきゃ  
いけないんだからね！

なんだ…？

一体何を  
あの二人…？

そう  
あの二人こそ

フラスコ計画の  
体現者

完全放射体という  
物質上の  
概念がある

すべての電磁波を  
吸収しまた放射する  
といういわば  
机上の空論だけど

彼らの  
「愛憎」と  
「死闘」は

その完全を  
いともたやすく  
完遂する

ひとよ  
人呼んで  
狭き門  
ラビットラビリス

バンブ  
受信  
ゆくよしみぞう  
行橋未造!!

そして

ひとよ  
人呼んで  
クリエイト  
創帝

アクタイプ  
発信  
二つよりおうど  
郡城王土!!

ぐううううう  
うううううう  
うううううう!!!

ぐ  
う



無神めだかを  
この連中に  
隠させる  
ことだったよ



箱庭学園での  
役目中 あたしが一番  
大変だったのは



表の六人!!

十三組の十三人



貴様達……  
どうしてここに……

それに  
どうして  
ここが……？

貴様達は  
不知火のことを……？

説明はあとだ  
黒神

仲間を抱えろ  
さっさと逃げるぞ

貴様ほどの化物を  
そこまでした化物を

あの程度で  
倒せるとは  
とても思えん

!?

え……  
いや  
だって……

さっきあんなに  
断末魔の悲鳴を  
上げて……

ぐうぐうぐうぐう

ぐう  
ぐう

はっ！

あまりの気持ちよさに  
ぐうぐう寝てしまった  
言彦の不覚！

足踏みマッサージに  
針治療に  
低周波治療！

なまっておった  
僕の身体を  
ほぐしてくれるとは  
新しくも親切な奴らよ！！



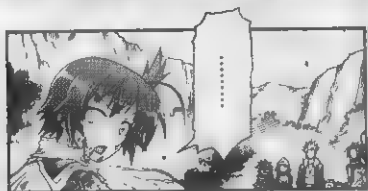
だが生憎だな！  
そのような機嫌取りが  
僕は一番嫌いなのだ！

こびへつらいおつて！  
どうして正面から  
戦いを挑まんのだ  
情けない！！

……正面から  
挑めなくて  
愚かったな

では

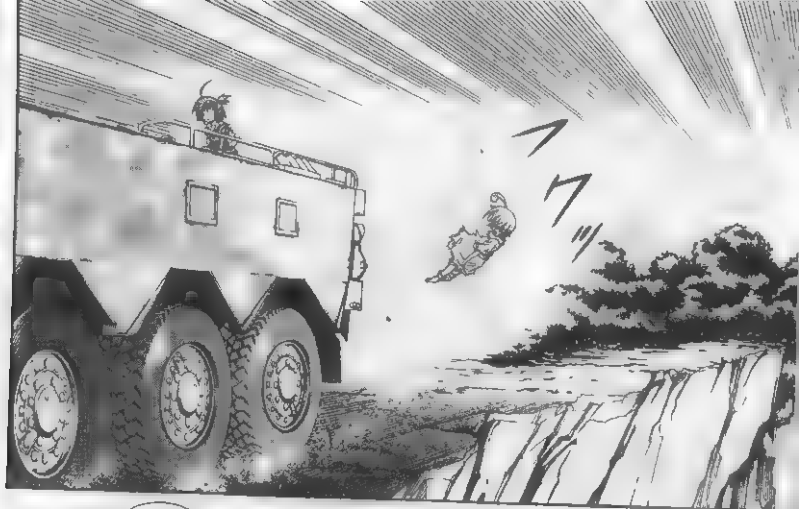
真機からなら  
どうか？











不知火!?

だから  
駄目なんだってば

あたしが  
里の外に  
出ちゃったら

官彦は里の外でも  
追って来るんだよ  
■ったでしょ?

か…精あん!  
さつき約束した  
だろう!

そのときは私が  
官彦を止めて

学園でよく  
覚えてたんだ

あたし

もしもあなたが  
黒神めだかじゃ  
なくて

あたしが  
不知火半袖じゃ  
なかったら

あたし達<sup>たち</sup>きつと  
最高の友達<sup>ともだち</sup>に  
なれたよね

めだか  
ちゃん!



だけどあなたは  
黒神めだから



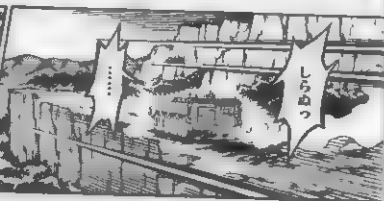
あたしは不知火半袖  
だから



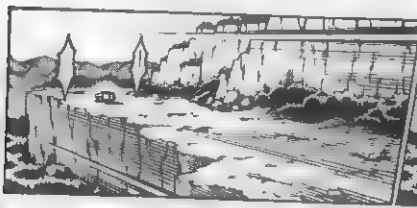
しっ…



しらぬいい  
いいいいっ!!



しらぬっ



やれやれ…  
やつと帰って  
くれましたか

静かな里に  
とんだお騒がせな  
客人でしたよ…



しかしあの装甲車  
誰が運転して  
いたのでしょうか？

いくらステルス  
とはいえ  
音彦を轢くなんて…





言<sup>い</sup>あり  
彦<sup>ひこ</sup>がと

ふん——  
儀にとつても  
大事な体  
だからな

傷つけてよいのは  
僕だけだ

ところで半袖 はんそで  
あおしの少女こせいの名前なまえを  
教おしえろ

どうしてそれを  
訊く？

もう二度と  
会ふことのない  
奴だぞ？

いいや  
ちが  
違  
う  
ね

あやつは

もう一度と  
あいまみえる  
しゆくめい  
宿命にある

2

いつももの  
思い込みか  
いや



げっげっ  
げっげ

今ならわかるぞ  
安心院なじみが  
新しくも

身を懸してでも  
あやつを守ろうと  
した理由が――

止めろ！  
戻れ！

綱まででいいから  
引き退してくれ！

いやここで構わん  
降ろしてくれ！

無茶言うな鬼神！  
その怪我で何が  
できるんだよ！

ええい離せ  
高千穂先輩！！

貴様達しらぬが  
里に残ることを  
わかっていたんだな！

だけど不知火だけじゃ  
ないんだ！  
安心院さんも  
あの里に残っているんだ！

助けに行かなきゃ  
助けに行かなきゃ！！

……  
なじみなら  
死んだよ

……  
裏面に  
殺された

だから俺が  
働き出したんだ

反転  
したのさ

俺と  
なじみが。

しらぬい  
不知火……  
半端……？

青緑  
一体……？

心配しなくとも  
すべて説明  
してやる

だから  
まずは俺を

反転院さんと  
呼びなさい。





駄目だわ！  
全然回復の  
兆しがない

出血はなんとか  
縫合して止めたけれど  
傷口がまったく  
癒着しない…

意識レベルも  
最低のまま…

第166箱

きょうじゅう たた つぶ  
「今日中に叩き潰す」

勘忍してください  
都城先輩  
こんな症状、私の爪には  
負えません

安心院さんか…  
それが黒神ちゃんを  
呼んでください

ていうか…  
このふたりが  
こんなザマだとうときに  
あのふたりは一体  
どこに行っただす？

俺を先輩と呼ぶな  
青貴——俺はもう  
退学した身だ

そして悪いが  
このまま現状維持に  
努めてやってくれ

あのふたりは  
ここには  
来られないんだ

安心院さんは  
殺された

そして  
黒神は

反転院さんこと  
不知火半蔵と  
向き合って

白黒つけてる  
ところだよ

何を飲む  
黒神?

コーラー  
サイダー  
オレンジ  
メロン

ソフトドリンクなら  
大抵あるぞ

なにせ俺がお前に  
プレゼントしてもらった  
ドリンクバーだからな

……要は貴様は  
安心院さんの  
影武者だったのか  
不知火半蔵

「もうひとりの悪平等」  
という触れ込みも  
それでは……

そうだ  
俺は元々  
そういう生物だ

なじみが悪平等  
だったから  
それに  
倣っただけさ

「スキルを作るスキル」と  
いうのも  
なじみの影である  
手段でしかない

で。黒神  
何から聞きたい？

と言うか

何を聞けば  
お前は諦めて  
くれるのだ？

半転院さん 貴様は  
知っていたんじや  
ないのか？

不知火の里に  
あの  
デストロイヤー

獅子目言彦が  
いたことを！

貴様がそれを  
安心院さんに  
告げていれば

安心院さんは  
むさむさ殺され  
なかったんじや  
ないのか？

その件で  
責められるとは  
思わなかったぞ  
意外だな

半袖のことを  
奇麗に忘れてる  
「表の六人」を  
説得して

助けに行っちゃった  
礼もまだ言われてない  
のにな



ぐっ…  
その件については  
感謝している

ごめんなさい  
ありがとう  
ございました

だが半転院さん  
それとこれとは…

俺は影だ  
なじみの行動を  
賢慮問わず  
妨げない

というより正直  
なじみが言彦に  
殺されるだなんて  
俺は露ほども思っ  
ていなかった

考えてもみろ  
五千年前言彦相手に  
一億回以上敗北しながら  
五体満足で生き延び  
目的もちやつかり遂げている  
安心したなじみだぞ

三兆年も  
生きていることから  
わかるだろう  
本来影武者なんて  
邪魔なくらい

あの自殺志願者は  
生存することが  
得意だったのさ

今回が  
初めてなんだよ  
なじみが

殺されるまで  
言彦と  
戦ったのは

それもこれも  
お前連を

不知火の里から  
逃がすため  
だったんだ

なじみはお前達の  
せいで死んだ  
それは許せない

だがそれでも  
俺はなじみの  
意志を継ぐ

あいつが身を挺して  
守ったお前達を  
二度と言彦の前には  
立たせない!!

……  
獅子目言彦

あいつは一体  
何者なんだ

英雄さ

学園なんて  
ミクロな範囲  
じゃなく

世界を救った  
英雄だ

土地を守り  
民の盾となり

仲間と共にあり  
女を愛し

悪を正し  
弱きを助け

戦い続けた  
五千年前の

御創断の  
英雄さ

なじみが  
百年ちよつと前  
試験管計画を  
フラスコ計画に  
移行させたのは

むろんその頃から  
行動を共にし始めた  
彼の「スキルを作るスキル」  
あつてのことだろうが

しかしそもそも  
「完全なる人間」のイメージに  
獅子目言彦があつたことは  
間違いないと彼は想像する

にわかには  
信じられんな  
私が見た言彦は  
粗野で暴虐で  
やりたい放題で

英雄像からも  
完全からも  
程遠かつたぞ

時代が違う  
そして

言彦にはもう  
守るべき土地も  
愛する女もない

あいつが  
救うべき世界が  
もうないんだよ

何より  
お前の会つた言彦は  
英雄言彦そのものでは  
ない

不知火の國が  
五千年間  
伝承してきた

獅子目言彦という  
「存在」なのだ。

……それだな  
不知火の里とは  
そもそも何なのだ

不知火一族とは  
貴様にとつて

安心院さんが言うところの  
つまりは「端末」なのか？

「端末」とは  
違う

俺は  
「バックアップ」と  
呼んでいる

さつきも言ったが  
なじみの生存能力は  
極めて高い

今回みたいなことでも  
ない限り  
俺のほうが先に死ぬ  
公算が高かった

だから俺が死んだとき  
俺の役目を引き継ぐ奴らを  
作っておく必要があったのだ

言うなら  
予備の予備つて  
わけだが

俺には  
なじみほどの  
統率力は  
ないのでね

だから一万年ほど前に  
「バックアップ」を  
作ったつき俺は  
それらとは没交渉だった

その一部が派生して  
できたのが今で言う  
不知火の里だ

有事の際に  
使えばいいと思って  
いたのだが

しかし蛙の子は蛙だな  
連中は俺と同じ本能を  
持っていたのだ

つまり  
「希少種を  
保存したい」

本能。

その本能に従って  
不知火の里は  
言彦を保存した

歴史上の英雄を  
保存し――  
伝承し続けてきた

黒神家の影など  
連中にとつては  
特技を活かして最近始めた  
アルバイトに過ぎん

ま鹿を食つては  
生きていけないからな

言彦を伝承  
するためにも

割のいい生計は  
必要だったのさ

保存とか伝承とか  
いうのは  
本物が寿命で死んだら  
影武者が「言彦」を  
受け継ぎ

その影武者が死んだら  
更にその影武者が  
「言彦」を受け継ぐ  
というサイクルか？

概ねそうだ  
不知火の里は

そんなサイクルを  
五千年間  
繰り返してきた

そして  
次に言彦を  
受け継ぐのが  
不知火半袖

あいつは四年後……  
二十歳で次の  
「言彦」になる

だからあいつは  
里から解放  
されないのさ



さつき 囁ねと重ったのは  
その「役作り」はもう  
影武者なんてレベルには  
収まらないからだ

人格や体格まで  
完全にトレースし

「不知火半袖」は  
消えてなくなり 次代の  
「獅子目書生」が現れる

だから書彦は  
あんなに執拗に  
不知火を追ってきたのか

それが次の自分の  
身体だからこそ…

だがなぜだ  
どうして奴は  
とつくと寿命は  
尽きているのに

保存られてまで  
生き続けようと  
するんだ…?

……  
すべてを失った  
あの英雄には  
もう「生き続ける」  
くらいしかないんだよ

生きる理由って  
奴が

生きる理由…

目的…

その辺が  
不知火の里の目的と  
一致しているのさ

もっともそれは  
裏返せば  
不知火半袖が  
あの里にいる限り  
書彦の目的は完全に  
達成されていて

里の外に出てくる心配はない  
無害な破壊屋と  
いうことでもある

だから俺は  
なじみの意志を継ぎ  
意地でもお前に  
諦めてもらうぞ

不知火半袖との  
友情をな!



やれやれ  
折角お色直しを  
したのに  
また着替え直しか

怪我を隠すための  
化粧もしなくちゃな

まったく  
人騒がせな  
来客だったよ



こんなことになつたけど  
俺を恨むなよ半袖

言彦を  
連れ出しでも  
しなけりや

安心院なじみと  
黒神めだかを  
止めることなんて  
できなかったし

引いては不知火の里を  
守ることも  
できなかったんだから

わかつてるよ半袖  
辛い判断をさせたね

安心院さんのことは  
残念だったけど...

言彦を動かして  
三人も生き残つたら  
御の字だ.....

人吉と  
球磨川先輩の

意識はもう  
戻らないにしても...

.....  
わかつてくれて  
嬉しいよ半袖

ついでに一応  
確認しておくけど

あんな目に遭つたら  
さすがのお嬢様も  
お前を諦めるよね？

.....

まき

とにかく  
嫌だ。

わたし  
私は  
あきら  
諦めない

あきら  
諦めないもんね  
ばーか！

……  
お前

俺の話を  
聞いてなかった  
のか？

聞いたよ  
なおさら  
聞いたら尚更

諦められなく  
なった！

しらぬい  
不知火が  
消えてなくなる  
だと!?

ばかめ!!

くろかみ  
この黒神めだかが  
そんないたい  
んな事態を看過できる  
わけなからうが!!

「希少種を  
保存したい」のが  
本能だとう？

だから  
言彦を保存し  
伝承していて

それが不知火の里の  
宿命だとう？

ならば話は  
簡単だ

私が言彦を  
今日中に叩き潰す!!

私が言彦よりも  
希少種になれば

不知火は晴れて  
お役御免だ!!





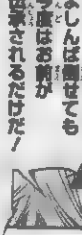
じよ…女子を  
ぐーで  
喰ったな!?



遅ればせながら  
何言ってんだ  
そして何が  
今日中だ!

倒せるわけない  
だろうが  
あんな奴を!

よしんば倒せても  
今度はお前が  
伝承されるだけだ!



そんなこと考えれば  
わかるだろう!?

なぜ  
わからないんだ

なじみの死を  
無駄にしたいのか!?

完璧超人気取りも  
いい加減にしるよ  
黒神めだか!



できないものは  
できないんだよ!!

その『できない』に  
生涯しょうがいかけて  
向きあつたのが

わたしたち  
私達わたしたちが大好きな  
安心院あんしんいんさんでは  
なかったのか。



付き合いの長さなど  
関係ない  
貴様あなたがそうするように  
私わたしだって安心院あんしんいんさんの  
意志いしを継ぐ



あの人の  
不知火しらぬいへの情なさけりは  
私が返す

安心院あんしんいんさんが  
私わたしを逃にががしてくれたのは  
私わたしに不知火しらぬいを諦めさせる  
ためじゃない



私わたしに  
這はい上がらせて  
勝かたせるためだ！

だから勝かつ！  
私わたしは言彦いひこに！

…勝かつって  
どうやって  
勝かつつもりだ

お前のその傷きずは  
癒なをえないのだし！

言彦いひこの破壊はかいには  
どんなスキルも！  
アブノーマルもマイナスも  
通用こうようしないんだぞ！！



アブノーマルも  
マイナスも  
通<sup>つ</sup>じない

んじや

スタイルなら  
どうだい？





!?

つるばみかめ  
鶴喰団……  
黄波生煮……

スタイルつか  
言葉使い!

もちろん

私の原始的な  
スタイルじゃ  
無理だろうね

いや本意は  
できるけど

できる  
できる

けどもしも  
めだ姉がスタイルを  
身につければ

獅子目重彦相手でも  
勝機はあるんじゃないかな?

引いては  
辛袖ちゃんを  
助ける目も……

ね

!?

え……?  
弟くん……  
貴様

不知火のことを  
憶えて……?

だーから  
知ってるって  
言っただけじゃん

何を聞そう私は  
ダークヒーロー  
なんだから!

もつとも私が  
知ってるのは

学園の外での  
不知火辛袖  
なんだけどねー



……  
よろしいのですか  
半袖さま

あんなことの  
後なのでから  
そんなに急いで  
次の職場に  
向かわなくても…

いーんだよ  
どうせ言葉に  
やられた傷は  
もう治らないだし

働いてたほうが  
気が紛れるのでね

「役作り」の詰めは  
向こうですることに  
するよ



大丈夫だよ  
逃げたりしないから  
安心して

逃げるだなんて…  
そんな心配は  
していませんが…

しかし  
次の職場が職場ですから  
コンディションは  
整えてからのほうが  
よろしいかと思ひまして…

そうだね  
確かに

これは結構な  
大役だよ



さあ  
会いに行こうよ  
めた姉

お前が殺した  
お前の父親

スタイルの  
創始者  
鶴喰泉に！

死人の  
影武者が

鶴喰泉

将軍「重臣」を  
継ぐにあたって

いい予行練習が  
できそうだ…



ど、ど、ど、て、えん  
です、か

名瀬副会長

ていうか  
そのマントは  
体：フ、

電車<sup>でんしゃ</sup>を  
乗り継いでからの  
レンタル自転車<sup>レンタルじてんしゃ</sup>とは

やれやれ  
めだ姉

仕方<sup>仕方</sup>あるまい  
反転院<sup>はんてんいん</sup>さんは  
呆<sup>ばか</sup>れて帰<sup>かえ</sup>って  
しまったし

それに私<sup>わたし</sup>選<sup>えら</sup>なら  
ロード<sup>ロード</sup>が結局<sup>けつぎ</sup>  
一番速<sup>いちばんはやい</sup>だろう

ロード<sup>ロード</sup>が結局<sup>けつぎ</sup>  
一番速<sup>いちばんはやい</sup>いの  
お前<sup>まえ</sup>くらいだよ黒神<sup>くろがみ</sup>

てゆうか  
さつきから横<sup>よこ</sup>  
ずつと綱<sup>つな</sup>なんだ  
けど……

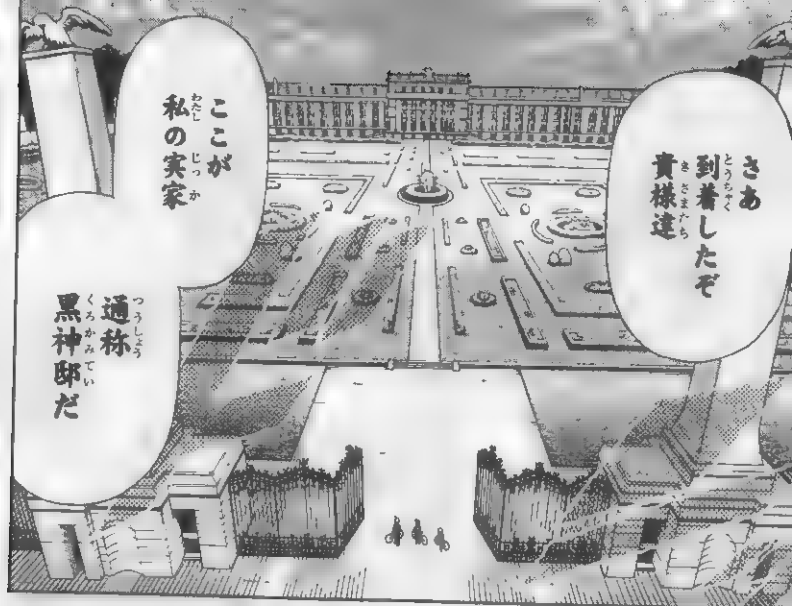
このパターンって  
ひょっとして……

漆黒<sup>しこく</sup>宴<sup>えん</sup>のときと比べて  
一気に高校<sup>こうこう</sup>生<sup>せい</sup>らしい  
交通手段<sup>こうつうしゅん</sup>に  
なったもんだね

うむまあ  
そんなところだ

おっと

なんとか  
午前中<sup>ごぜんちゅう</sup>に  
間に合<sup>あ</sup>ったな



さあ  
到着したぞ  
貴様達

ここが  
私の実家  
わたし

通称  
黒神邸だ  
くろかみてい



さすが  
黒神グループ総帥の  
本宅となると

家っていうより  
宮殿だね  
こりや...

んー  
本宅というか

この辺の都市が  
丸ごと親父殿の  
所有地なのだ

都市!?  
とし



うむまあ  
昔で言う城下町  
みたいなもの?  
かな

この手の都市を  
国内に百箇所  
海外に四百箇所ほど  
親父殿は所有していて

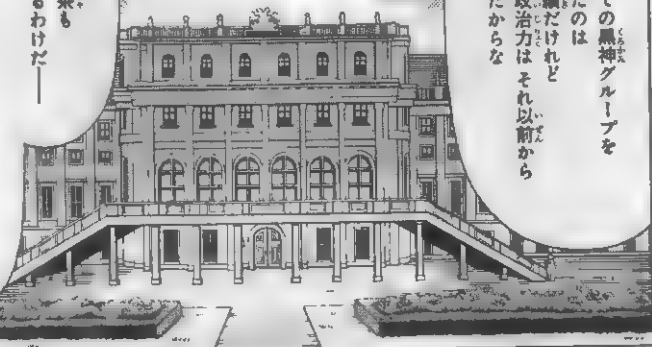
用途によって  
住み分けて  
いるのだ

計五百都市って...

一日おきに  
引っ越してまわな

企業としての黒神グループを  
大きくしたのは  
兄貴の功績だけれど  
黒神家の政治力はそれ以前から  
地球規模だからな

そんな無茶も  
実現できるわけだ  
なんて



分家の貴様達には  
今更釈明するまでも  
ないか

私が家を出たのは  
兄貴が嫌だったから  
だけれど

しかしまあ  
この環境では  
スポイルされて  
駄目になると

出奔した  
くじ姉の気持ちも  
わからんでもない

兄貴もほとんど  
家には戻って  
おらんようだし

私にしたって  
帰宅は久し振りだ

ばーっばっばっ  
ばっばっばっ！

娘よ！

……だけど  
そんなに都市が  
あるんじゃない  
ここにいくかどうか  
わからなくない？

それは心配ない  
ちゃんとアポを  
取ったから――



マントの襟を  
凛々しく  
おっ立てて…

おか襟

!!







もちろんその服は  
さし上げますので  
お持ち帰り下さい

ああそうだ丁度  
手頃なブラチナ峰山を  
入手しましたので  
それと一緒に包ませ  
ましょう

ありがとうございます  
ございます  
いただきます

き

いやーいたいたいや  
駄目なところ多い

お父様

どうやって  
包むの？

お父様  
私も洋服を用意して  
欲しかったのですな

この屋敷に  
和服は不似合い  
でしょうに

ばっばっば  
そう言いなさんな  
よく似合いますよ

時間があれば  
髪も結ってあげたい  
ところですね

生憎  
その時間は  
ありませんな

お父様  
時間が無いので  
軍刀直入に  
申し上げます

鶴喰泉  
つるばみくろう

の所在を  
おし  
教えていただきたい

…どうい  
うことす  
めだかちゃん？

てつきり私は  
きみに勝手に  
影武者をつけたこと

そしてその影武者を  
勝手に外したことを  
責めに來たのだと  
思っていました

もちろんそれを  
責めたい気持ちも  
ありますが  
お陰で不知火と  
出会えたことも  
事実ですし

それに既に  
そういう状況では  
ないのです

不知火一族が  
抱える闇は  
それどころでは

……  
聞きましよう

話してご覧  
なさい

なるほど  
獅子目言彦

不知火一族が  
まさかそのような  
古き英雄を  
囲っていたとは…

ちなみに  
ここにいる彼は  
鶴喰博士の息子です

鶴喰園

それだけでも  
博士の居場所を  
知る権利があると  
思います…

そうでしたか

言われてみれば…  
面影はありますね…

…漆黒妻で  
ずっと死んだと  
思っていた  
私の父親が

どうやらどうあれ  
生きていることが  
わかりました

だけどその後  
八方手を尽くして  
いくら探しても  
見つからないんです

だから私は  
姉さんと不知火さんの友情を  
父の機嫌に

あわよくば  
利用しようとして  
ここに来ました

どうか隠匿して  
ください

私は  
なんとなく

きり

あわよくば  
お金をもらおうと  
ここに来ました

どうか隠匿して  
ください

お前  
なんとなくでしか  
行動しないのか!?

リッ?

しかしめだかちゃん  
獅子目彦彦打倒のため  
会う必要があるからと  
言って

どうして私が  
奥博士の所在を  
知っていると思  
うのです？

知っているという  
確信があるわけでは  
ありません——ただ

あなたは  
知っているべきだと  
考えただけです

鶴喰島の義兄であり  
かつては親友でもあった  
あなたならば  
知っているべき

そしてそれを  
私に教える  
べきだと……

いや本当  
どこにいるん  
だろうね  
奥博士？

いや本当は  
お前が知っていないのは  
おかしいんだけどね！

……  
どうやら

とぼけても  
無駄なようですな

確かに  
知っていますよ

いや  
知っている  
どころか

つい最近  
「その場所」で  
彼に会ってきた  
ところです

そしてそのとき  
私は博士の  
依頼を受けて

きみの元影武者  
不知火半袖を  
博士の影武者として  
派遣すること  
承認したのです

な…では  
私の影を消えた  
不知火の次の  
「役」とは…

博士の影  
だったのか……!?

!?

待つてこれは  
チャンスだよ!  
不知火は仕事なら  
星の外に出られるん  
だから

博士に  
会いに行けば  
あいつと合流すること  
できる!

星や星の道中を  
出し抜くには  
絶好の機会だ!!

その通りだけど…

お前が  
夢とかなことを言う  
ふざけるように  
しか聞かないわ!

…そのレベルの  
交流があるというのは  
想像を越えていました

不知火を影武者に  
指定する博士の  
意図は察しかね  
るとして

私としてはこれで  
益々お父様から  
博士の所在を  
教えてもらわなくては  
ならなくなっただけ  
ですが…







これは黒神家  
家長としての  
決定です

黒神家の娘として  
従ってもらいますよ  
めだかちゃん

……どうしてです  
お父様

私が博士を  
「もうひとりの父親」  
として慕っているから  
ですか

だからそんな  
意地悪を  
言うのですか？

ばばば！  
もちろんそれも  
ありますが

それだけで  
意地悪するほど  
私は愛のない  
父ではありませんよ

「察しかねる」  
などと言いつつ  
本当はわかって  
いるのでしょうか？

博士が影武者として  
不知火半袖を指定  
したわけ

否

不知火半袖を  
指定した意味を

ならば私が  
めだかちゃんに  
博士の居場所を

教えない理由も  
わかるはずでしょう

………？

おやおや

久し振りの再会  
だったのに  
親子喧嘩かい？

す  
1



やめときなよ  
龍樹さん

どうせ  
父親が娘と  
喧嘩して

勝てるわけ  
ないんだから

亡さん…

あなた  
いつから  
そこに…

……  
御無沙汰して  
おります  
亡母さま

そうですね  
今日はあなたが  
お母様の日でしたか…





黒神家の  
家長権くろかみけ  
かちようけん

を  
今この場でいまこのば

私  
黒神めだかが  
継承しますわかし  
くろかみ  
けいしやう

お父様  
私はあなたに  
クーデターを  
宣言しますおとうさま  
わしはあなたに  
クーデターを  
せんげんします

そしてその  
家長権を  
もってそしてその  
かちようけんを  
もって

あなたに  
命令させて  
いただきますあなたに  
めいれいさせて  
いただきます

博士の居所を  
教えなさい

舵樹！



くくく  
だから

「取り違いの  
つかないこと」に  
なる前に「つて  
言っただけなのに☆

え……ちよっと  
待ってよ  
めだ姉が鬼神グループ  
幹部を撃つのは  
二十歳になったときって  
約束でしょ？

だからめだ姉は現在  
霜魔学園に  
通ってるんだよね？

それを今  
聞くってことは



もしも  
しらぬい  
不知火さんが  
学園に  
戻れても  
今度は

めだ姉が  
学園に  
いられなく  
なるんじやあ……



……  
漆黒軍で  
優勝した  
ことにより  
得た自由

を

自ら捨てよう  
というのですか  
めだかちゃん？



自由を  
捨てるのも  
また自由

いと  
嬉しからずや！





しらぬいはんでん いまさら こうほせいこうざ  
 不知火半纏の今更ながらも候補生講座①

なじみが死んでしまったので、今回の講座は暫定的に俺が担当する。次巻以降の予定は未定だが、まあこれもなじみの影としてするべき責務と言えるだろう。なじみが黒神めだかと非戦という形で戦った頃、黒神めだかの下に送り込んだ端末達を今更ながら紹介しよう——別に感傷的な気持ちで、なじみ自身でもある彼女達を紹介しようというわけでもない。最初は喜々津津だ。俗に言うゲーム脳で、世界を、人生をゲームとしかとらえられない性格の持ち主だ。そういう意味では最も、なじみの端末らしい端末と言える。しかしなじみと違って全知全能というわけではなく、実際には数多くの「できない」を持っている彼女は、そのゲームを相当楽しんでたようでもある。なじみにもその余裕があればよかったんだがな。



ききつ きき  
 喜々津津々

さい  
 15歳

がた  
 AB型

かんおけらやうがく ねん くみ  
 棺桶中学3年2組



しらぬいはんでん いまさら こうほせいこうざ  
 不知火半纏の今更ながらも候補生講座②

二番手は鰐塚処理。こいつはその後、箱庭学園に残って生徒会執行部に所属したという事実を重く捉えるならば、例の次世代育成プログラムにおいて、トップの成績を修めたのだということもできそうだ。まあ五人の中では、最年長というわけでもないのにリーダー格だったことから見ても、この娘には何らかの、人の上に立つに足る資質はあるのだろう。しかし如何せんまだ未熟なので、飛び級で生徒会入りしたのは、ある意味救済措置と言えるかもしれない。黒神めだかいわく「設定が多過ぎる」。宗像形の妹であり、阿久根高貴の崇拜者であり、左眼にアブノーマルを有していながらそれを捨てた響流の使い手であり、銃器マニアであり——何より安心院なじみの端末であり、か？ 言葉遣いとかなもかな。「処理」仕切れないほどの設定をたんと押し付けられているということは、実はなじみが一番目をかけていたのは彼女なのかもしれん。一番だろうとかけていようと、平等なんだがな。



わにづかしより  
 鰐塚処理

13歳

AB型

せんすいかんらゆうがく ねん くみ  
 潜水艦中学2年5組

げんはこい わがく ねん くみ  
 (現箱庭学園1年1組)

しらぬいはんでん いまさら こうほせいこうぞ  
 不知火半纏の今更ながらも候補生講座③

好戦的で性格の悪い女子だ。なじみの端末らしからぬ、と思う者は思うかもしれないが、しかしなじみの端末達はそもそも「一人で大量の個性を有する」という点を重要視して存在しているので、バラエティに富んでいることがまず前提なのだ。個人が個性を無数に持つ、ということをして「できない」のテーマにした時期が、なじみにはあったということになるのかな。俺の「バックアップ」とは、そういう意味ではやはり性質が違ってくる——そもそも俺じゃあ、七億もの個性を統制するようなとんでもない真似は「できない」。とは言え、こんな凶悪な少女でも、友達があれば可愛らしいものだ。友達というのはこの場合他の四人のことでもあるし、生徒会執行部副会長だった球磨川禊のことでもあるのかな。性悪な人間も、善人のそばにいれば善性を帯びるということだ。友達が大切だと言われるのも、さもありなんか。



なからべ いま  
 財部依真

15歳

AB型

ひとますじょ しゅう ねん くみ  
 一柝女子中3年1組



しらぬいはんてん いまさら こうほせいこうご  
不知火半纏の今更ながらも候補生講座④

もうそう  
妄想たくましい、「間近でマジカルワンダーツギハ」のおでした。ところで  
なじみが死んだところで、七億の端末はその後も生き続けるということに疑問  
を覚える者もいるかもしれないが、端末は端末として独立した生命なので、彼  
女達の人生は彼女達のものだ。わかりやすいたえは咄嗟に思いつかないが、  
まあ企業はいわばひとつの生命みたいなものだが、もしも会社が潰れたとして  
も、会社員が全員死亡するというわけじゃないというようなものが——少なく  
とも端末側からみれば、この比喩は適切だろう。この娘は五人の中では一番の  
問題児扱いされていたそう。性格が悪いわけでも、迷惑をかけるような行動  
が多かったわけでも、態度がひどかったわけでもないのだが、まあ見慣れない  
奇行というのは、やはり誰しもの心を揺らしてしまふものなのかもしれない。  
「わけがわからないものを警戒する」というのは、人間の本能だな。その妄想  
を「わかる」形に落とし込んだ黒神は、ふん、確かにさすがなんだろうよ。



よじろうつぎは  
与次郎次葉

さい  
14歳

がた  
AB型

かんづめちやうがく ねんていぐみ  
缶詰中学3年D組

しらぬいはんてん いまさら こうほせいこうざ  
 不知火半纏の今更ながらも候補生講座⑤

トリは自律式人型アンドロイド「ホープ」だ。御船製作所の生まれ——端末がロボとはどういうことだと言われても、これは俺だって驚いている。俺はなじみの行動のすべてを把握しているわけじゃあないし、七億の端末を全員知っているわけじゃあない。影であり、「そこにいただけ」の俺に対しても時折サプライズを仕掛けてくるから、安心院なじみというあの女は貴重種であり、希少種なのだ。ちなみに女性型の人型ロボなので、正確には「ガイノイド」と表記すべきかもしれないが、この国においてはわかりづらい。そういう仕様で作られているだけあって、有能さ・有用さでは、五人の中でもトップクラスであることは、例のオリエンテーリングでも示された通りだ。心を学ぶために箱庭学園に来たということだが、しかしそれなら、あの当時の黒神に学びに来るのは、無意味ではないと思うが、危険な賭けではあったろう。桃園喪々と絡ませたらどうということになっていたかを考えてみるのは興味深い。



きぼう おかしうしょう  
 希望が丘水晶

さい  
 1歳

がた  
 AB型

せい じょがくいん ねんうめぐみ  
 聖力ーゴ女学院一年梅組

次巻、思いを確かめ、

あ。

受け継ぎ

獅子目  
言彦を

これって俺が  
不知火と友達に  
なった

四月の  
あの日じゃん！

めだか達は

今日中に  
叩き潰す!!

決戦の場へ!!



待ち受けるのは

『死人』



鶴喰梟博士!!

その不始末を  
影武者に調査した  
黒博士が唯一

待望的に  
官房を離れ  
不始末を始

官房に迫る  
スタイルを  
していること



めだかボックス 第20巻

2013年

4月発売予定!!